

第2章 都市の現況・特性の調査分析

2-1 島田市の位置、成り立ち

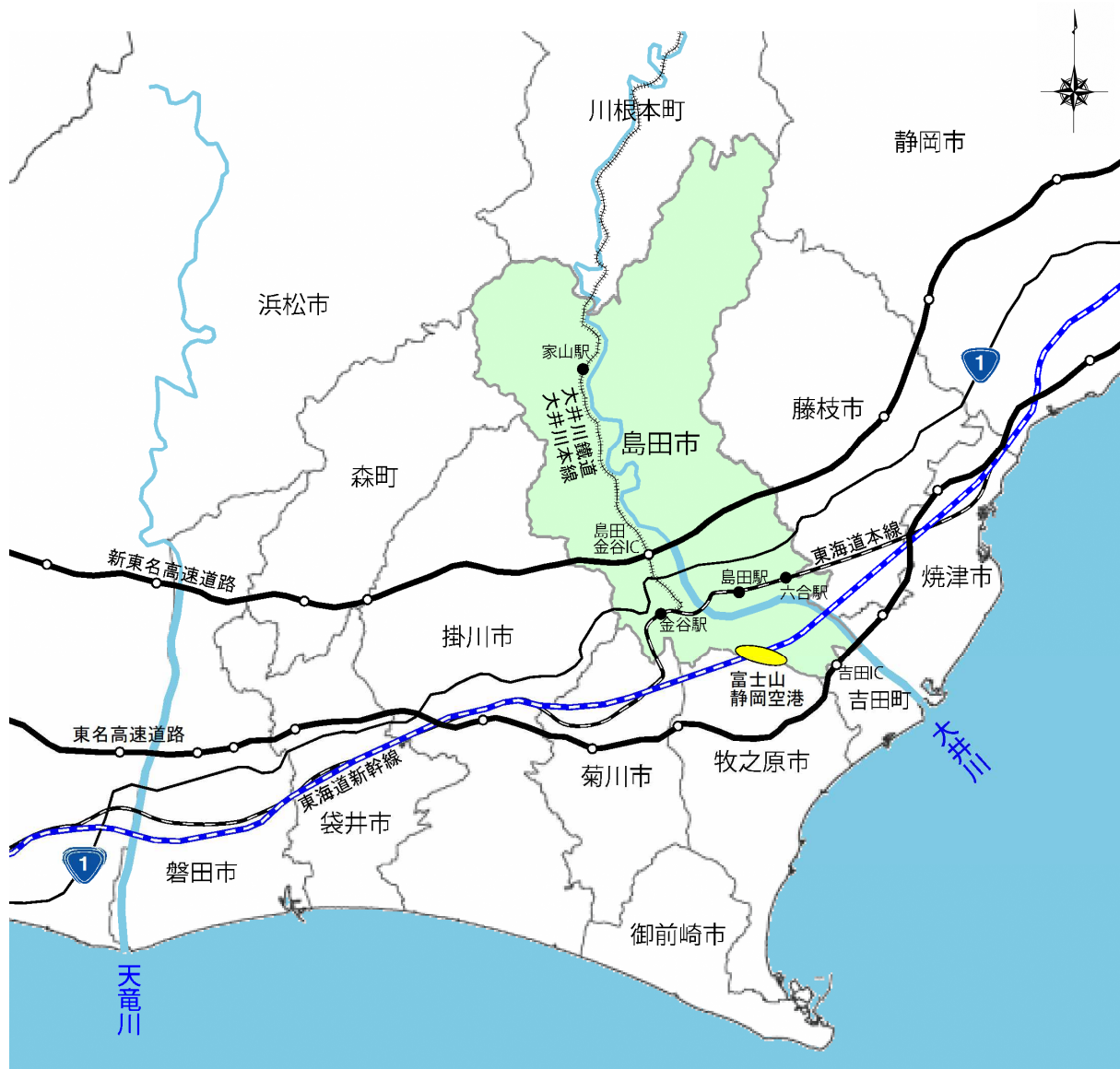
2-1-1 広域的位置

本市は静岡県中部に位置し、大井川の両岸に広がる面積約315.7㎢の市域を有しています。

本市の中央部を新東名高速道路が東西に通過するほか、その南側には国道1号、JR 東海道本線・東海道新幹線及び東名高速道路が通るなど、交通の要衝となっています。

また、本市の南端には富士山静岡空港があり、全国各地や世界をつなぐ空路の玄関口でもあります。

図 島田市の広域的位置



2-1-2 沿革

本市は、丘陵地に縄文時代の遺跡が多く分布し、江戸時代には東海道の難所として、大井川の川留めによる宿場として栄えました。また、江戸時代に広まったとされる茶の栽培が市内全域で広く普及しました。

明治時代からは、大井川の水運を活用した木材の生産・流通が活発に行われ、現在では有利な立地環境により広範な企業立地が進み、大井川流域の中核都市として、都市機能を集積しその役割を担っています。

図 本市の沿革

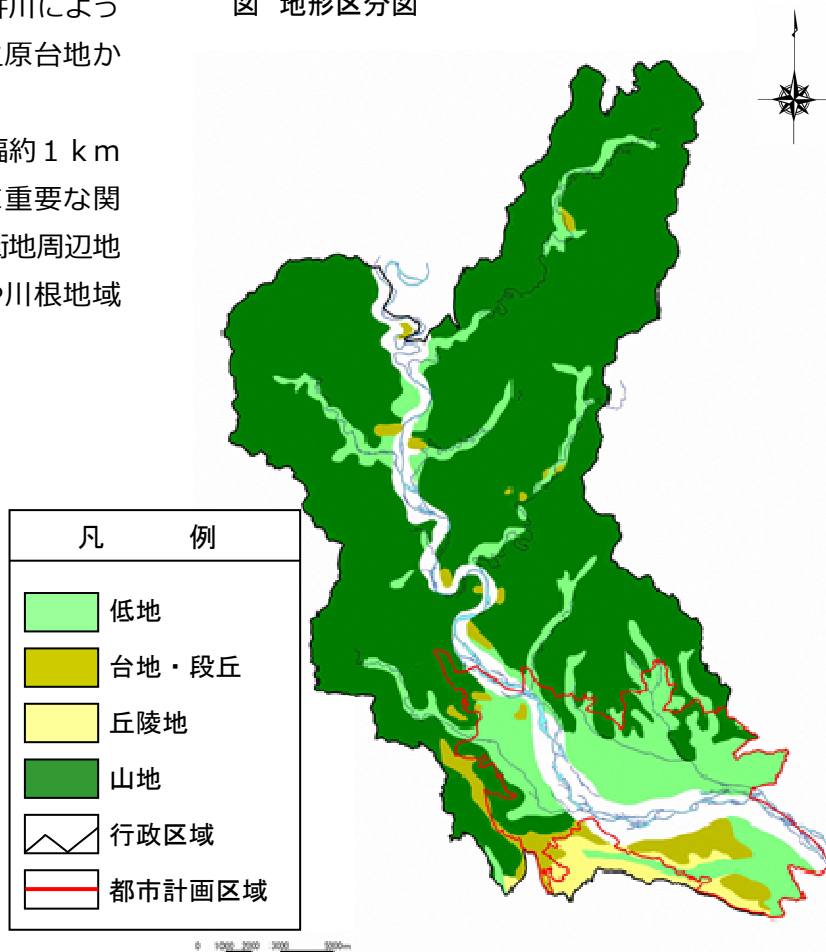


2-1-3 地形

本市は大井川の中・下流域に位置し、北部は山地が多く、南部は大井川によって形成された扇状地及び牧之原台地からなっています。

また、一級河川大井川は川幅約1 kmにもおよび本市の成り立ちに重要な関わりを持つとともに、中心市街地周辺地域と初倉地域及び金谷地域や川根地域を二分しています。

図 地形区分図



2-2 都市づくりの視点別の現況・特性の調査分析

第1章の都市づくりの視点に沿って、現況・特性の調査分析を次のとおりまとめました。

2-2-1 都市の暮らしやすさ

(1) 人口

1) 人口推移

国勢調査による本市の人口は、1990年（平成2年）の103,143人をピークに減少に転じています。今後も人口減少が続き、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計では、2040年（令和22年）に約80,000人となり、2015年（平成27年）に比べて約20%減少すると予測されています。

また、高齢化率は平成27年国勢調査では約30%となっており、社人研推計では2040年（令和22年）に約40%に上昇すると予測されています。

なお、この10数年間（2005年（平成17年）以降～現在）の人口推移に着目すると、現行の都市計画マスタープランの推計値と国勢調査の実績値がほぼ同等に推移しています。

図 人口推移・将来人口

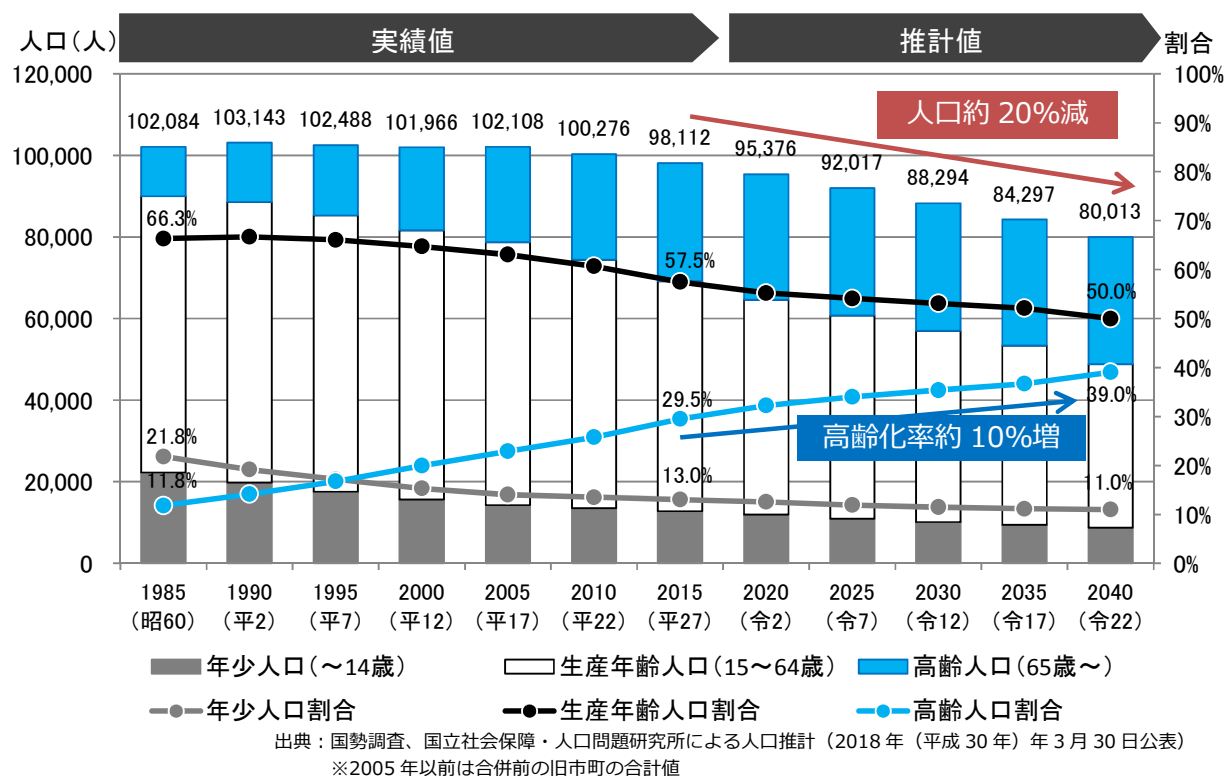
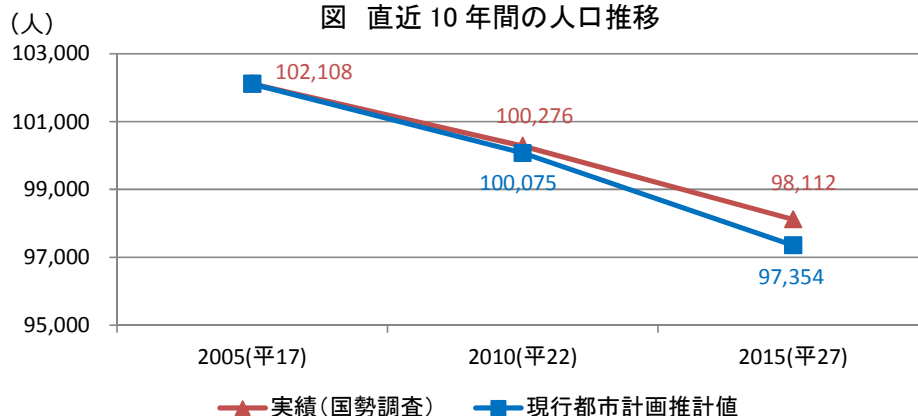


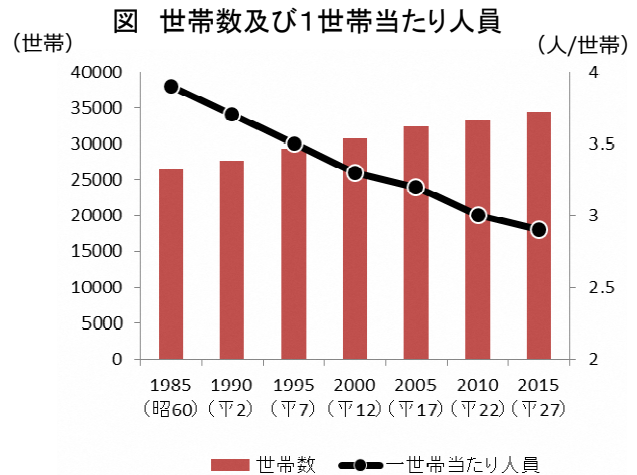
図 直近10年間の人口推移



2) 世帯数推移

国勢調査による本市の世帯数については、緩やかに増加しています。

一方で、1世帯当たり人数については、減少しています。



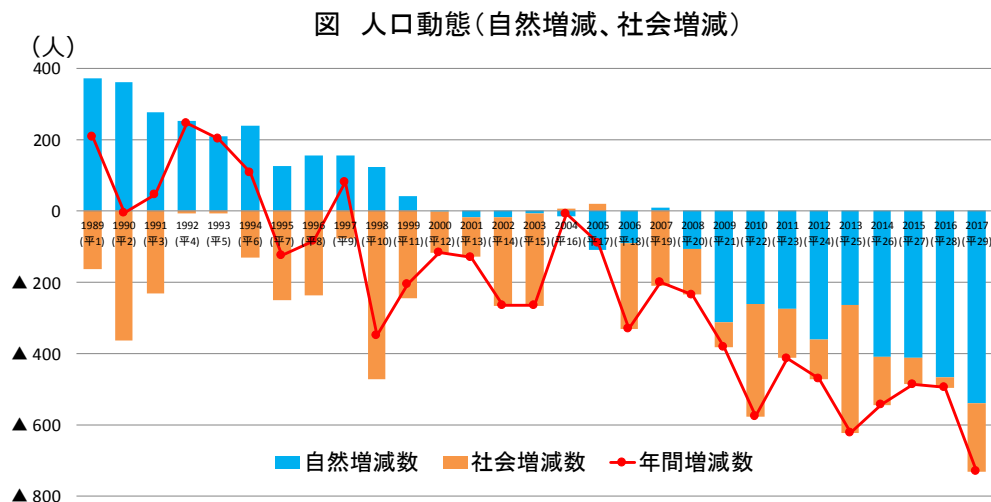
出典：国勢調査 ※2005年以前は合併前の旧市町の合計値

3) 人口動態

都市計画基礎調査による本市の人口動態については、1997年（平成9年）までは増加傾向にありましたが、その後社会減に加え自然減も重なり、人口の減少が続いています。

若い世代の転出・転入状況をみると、15～19歳、20～24歳については転出が多く、進学などを機に市外に転出するケースが多いと推測されます。一方、25～29歳については転入超過の状況が続いています。

また、合計特殊出生率については、全国平均を上回っており、2005年（平成17年）以降緩やかに回復しています。



出典：都市計画基礎調査

図 若い世代の転入・転出状況

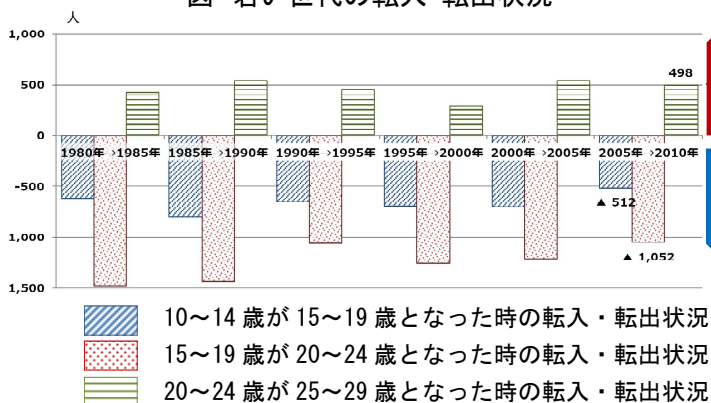
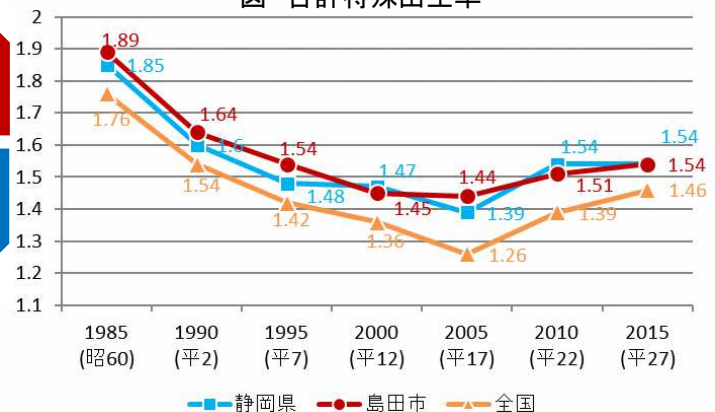


図 合計特殊出生率



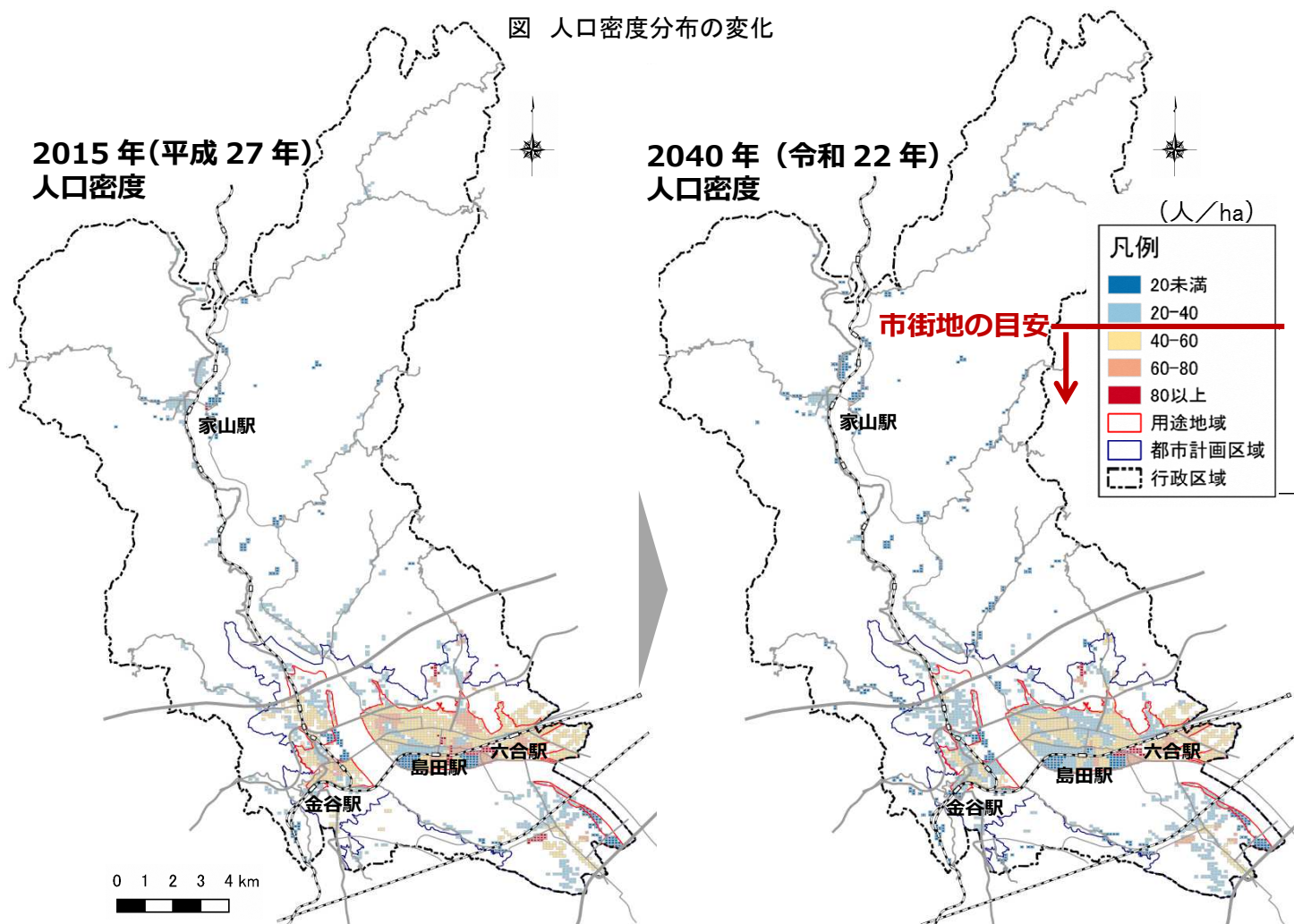
出典：島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

4) 人口分布

本市の人口密度について、2015 年（平成 27 年）では、工業系を除いた用途地域内に市街地の目安となる 40 人/ha を上回るエリアが広がっています。

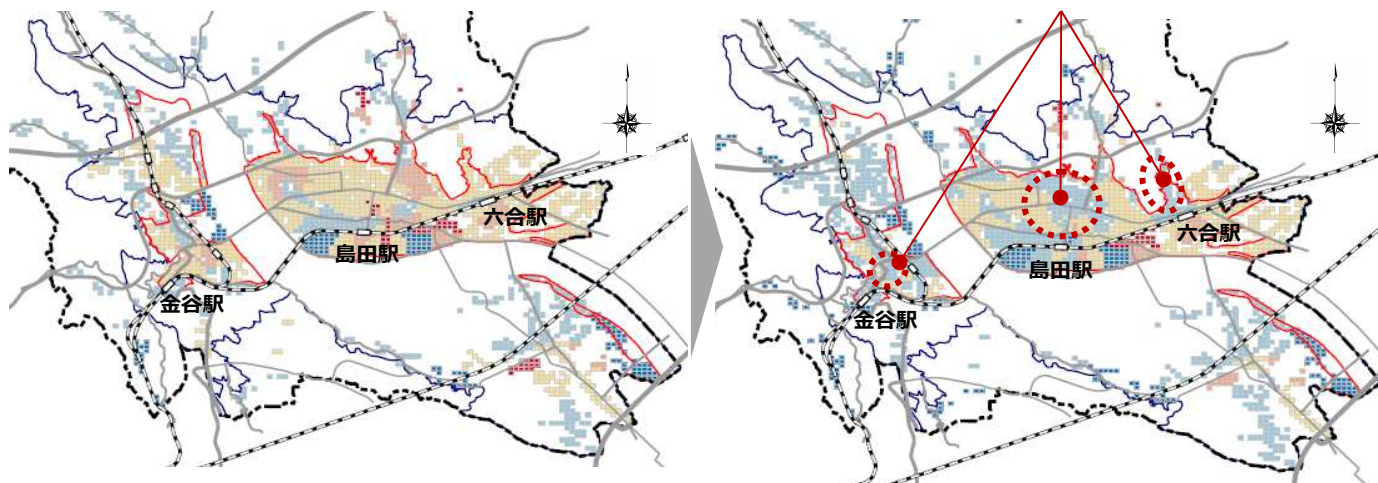
2040 年（令和 22 年）の推計では、現在の住居系用途地域内にも 40 人/ha を下回るエリアが広がり、市街地に空き地・空き家が増加すると推測されます。

図 人口密度分布の変化



■都市計画区域拡大図

市街地において人口密度低下が 40 人/ha を下回ると予測されるエリア



出典：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）

5) 都市計画区域の人口分布

①これまでの人口推移と今後の人口密度変化予測

都市計画区域における 1985 年（昭和 60 年）以降の人口推移をみると、用途地域内の人口は約 4,300 人減少しています。一方、用途地域外では 5,300 人増加しており、郊外の人口が増加していることが見受けられます。

また、都市計画区域の人口密度の変化をみると、用途地域内の J R 駅周辺などで人口減少が著しいエリアが広がると予測されています。

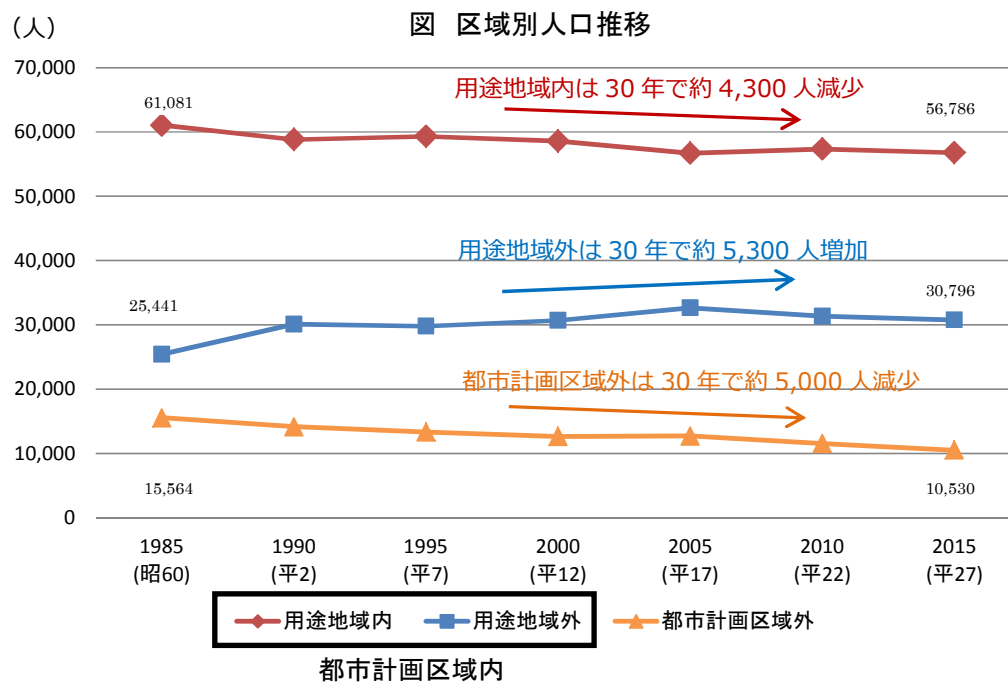
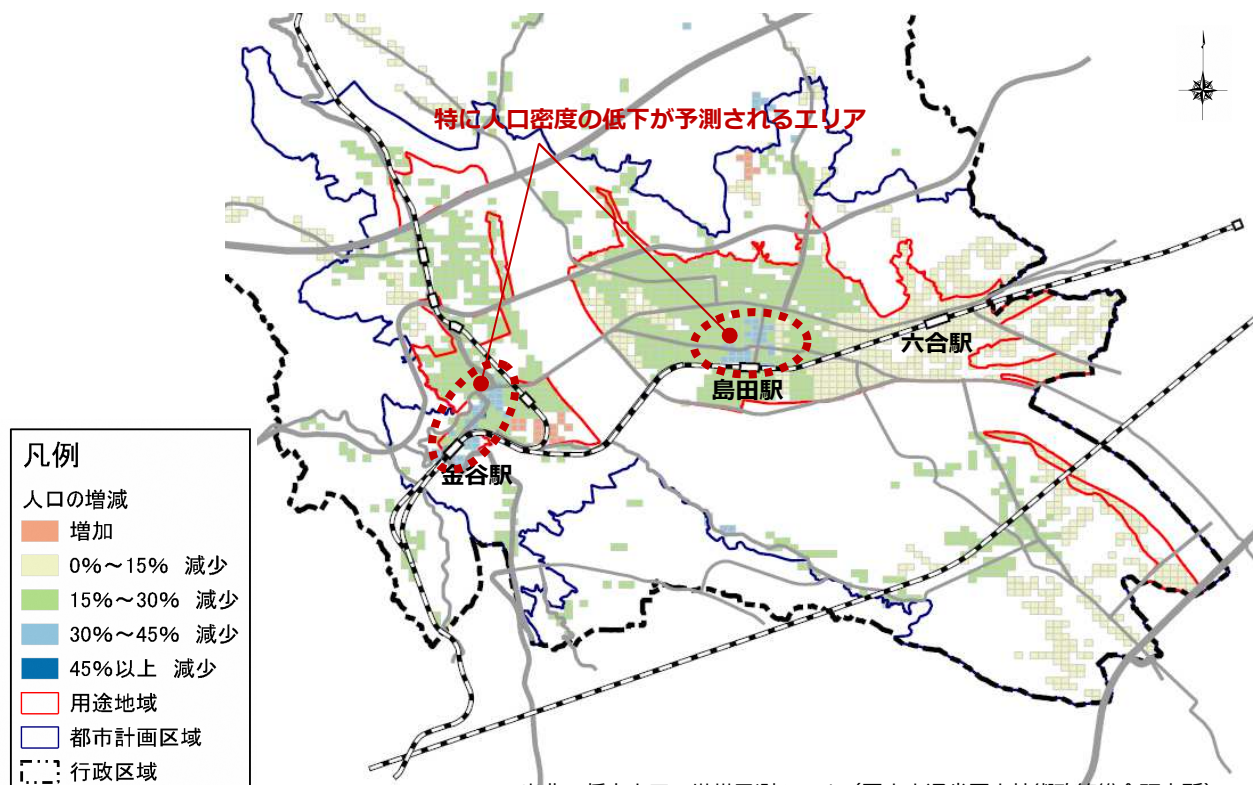


図 2015 年(平成 27 年)→2040 年(令和 22 年)の人口密度変化の予測(都市計画区域)

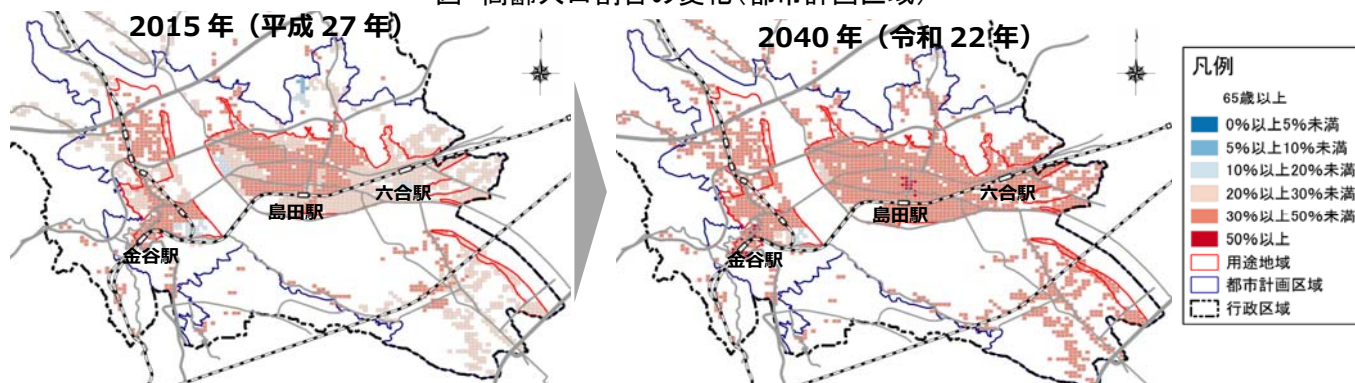


出典：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）

②高齢人口（65 歳以上）の人口割合の変化予測

2015 年(平成 27 年)の高齢人口の割合が 30%を超えているエリアについては、島田駅や金谷駅周辺などで多くみられます。2040 年（令和 22 年）には用途地域内のほぼ全域で 30%以上になると予測されています。

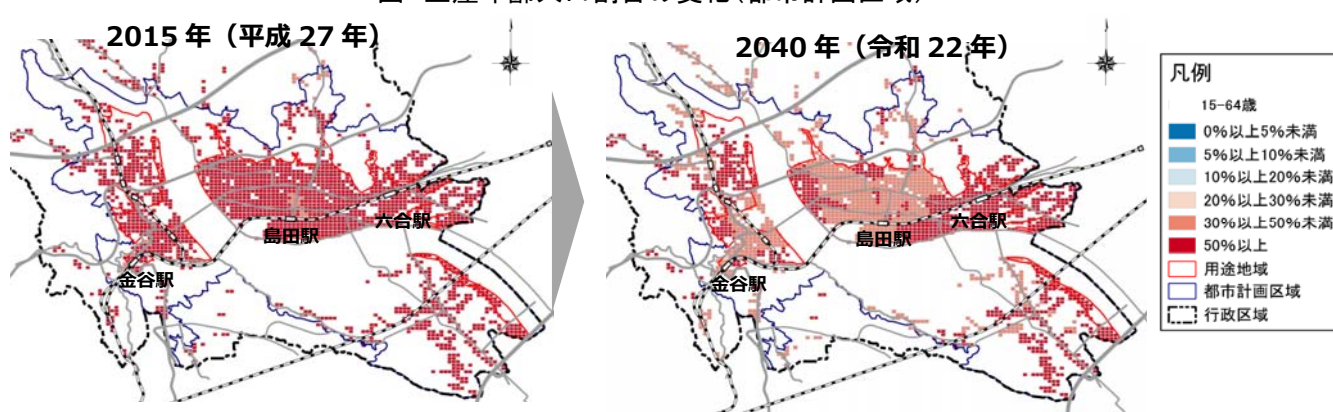
図 高齢人口割合の変化(都市計画区域)



③生産年齢人口（15～64 歳）の人口割合の変化予測

2015 年（平成 27 年）の生産年齢人口については、用途地域内のほぼ全域で 50%以上になっています。2040 年（令和 22 年）には市街地を中心に 50%未満になるエリアが広がると予測されています。

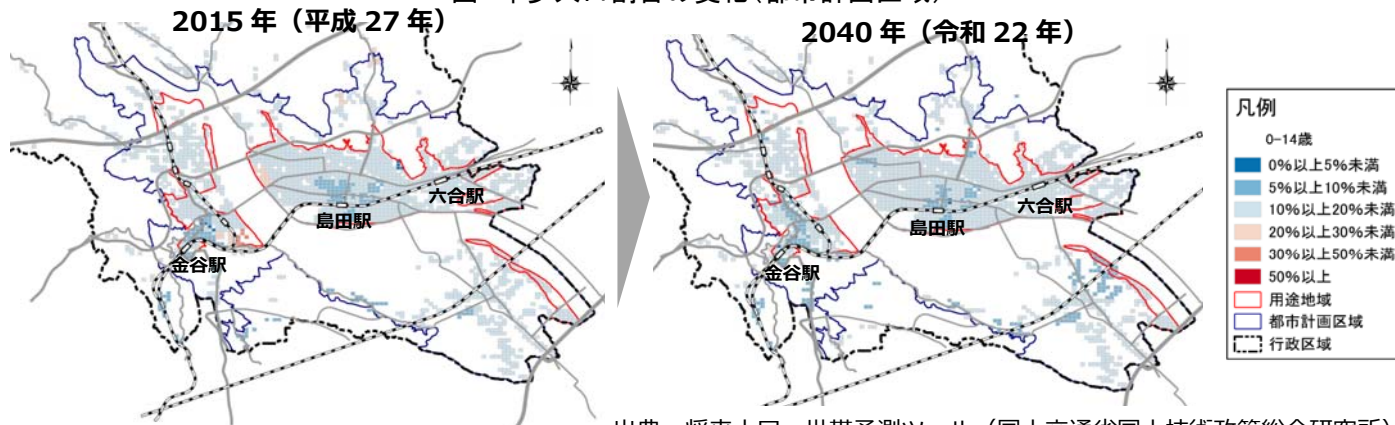
図 生産年齢人口割合の変化(都市計画区域)



④年少人口（14 歳以下）の人口割合の変化予測

2015 年（平成 27 年）の年少人口については、島田駅や金谷駅周辺の一部などで 10%未満であるほかは、概ね 10～20%の割合になっています。2040 年（令和 22 年）においても同様の傾向となると予測されています。

図 年少人口割合の変化(都市計画区域)



(2) 土地利用

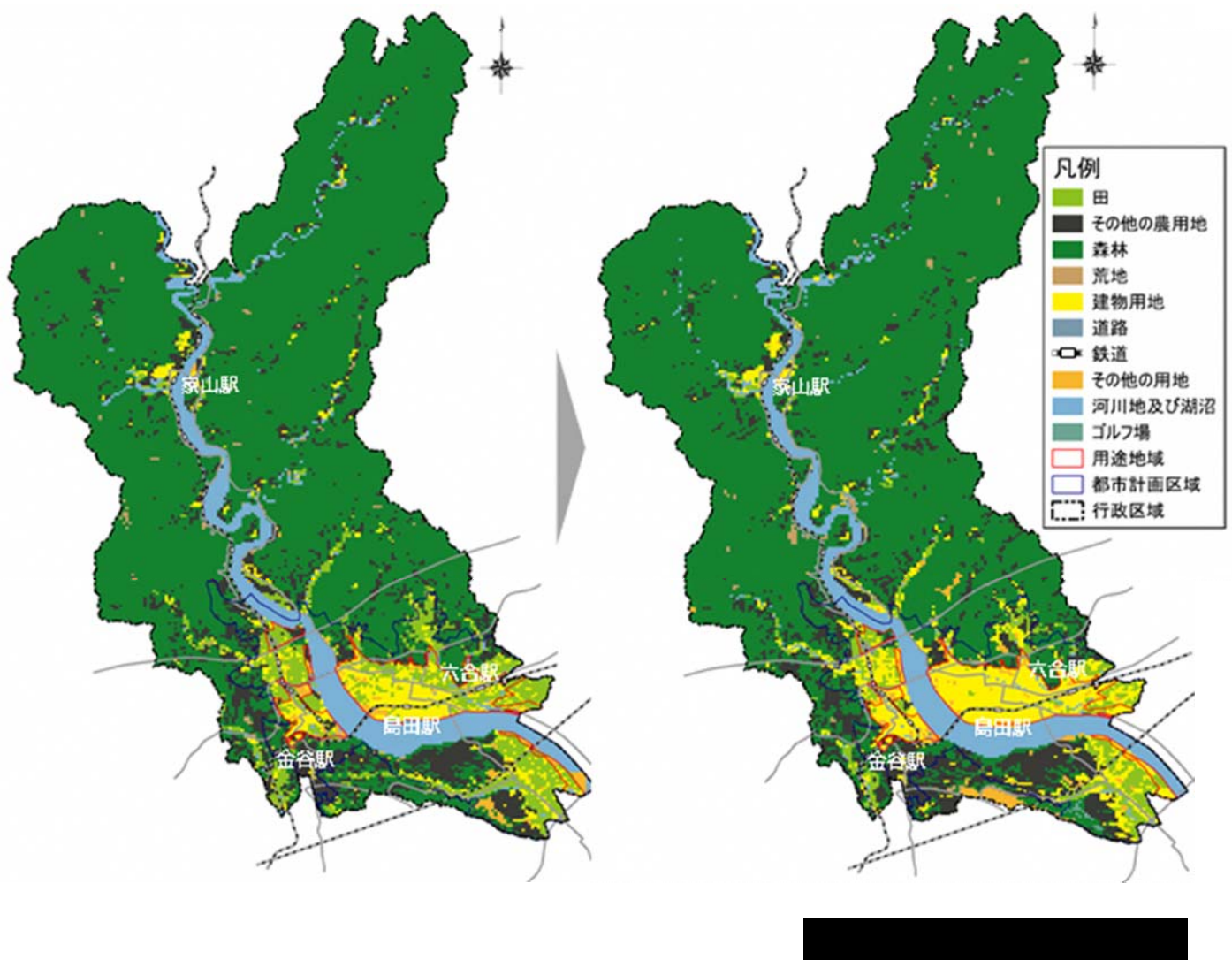
1) 土地利用の変遷

本市の用途地域内及びその周辺における土地利用については、1976 年（昭和 51 年）から 2014 年（平成 26 年）までの約 40 年間に、用途地域内及びその周辺では、田から建物用地に変化しています。

図 土地利用の変遷

1976 年(昭和 51 年)

2014 年(平成 26 年)



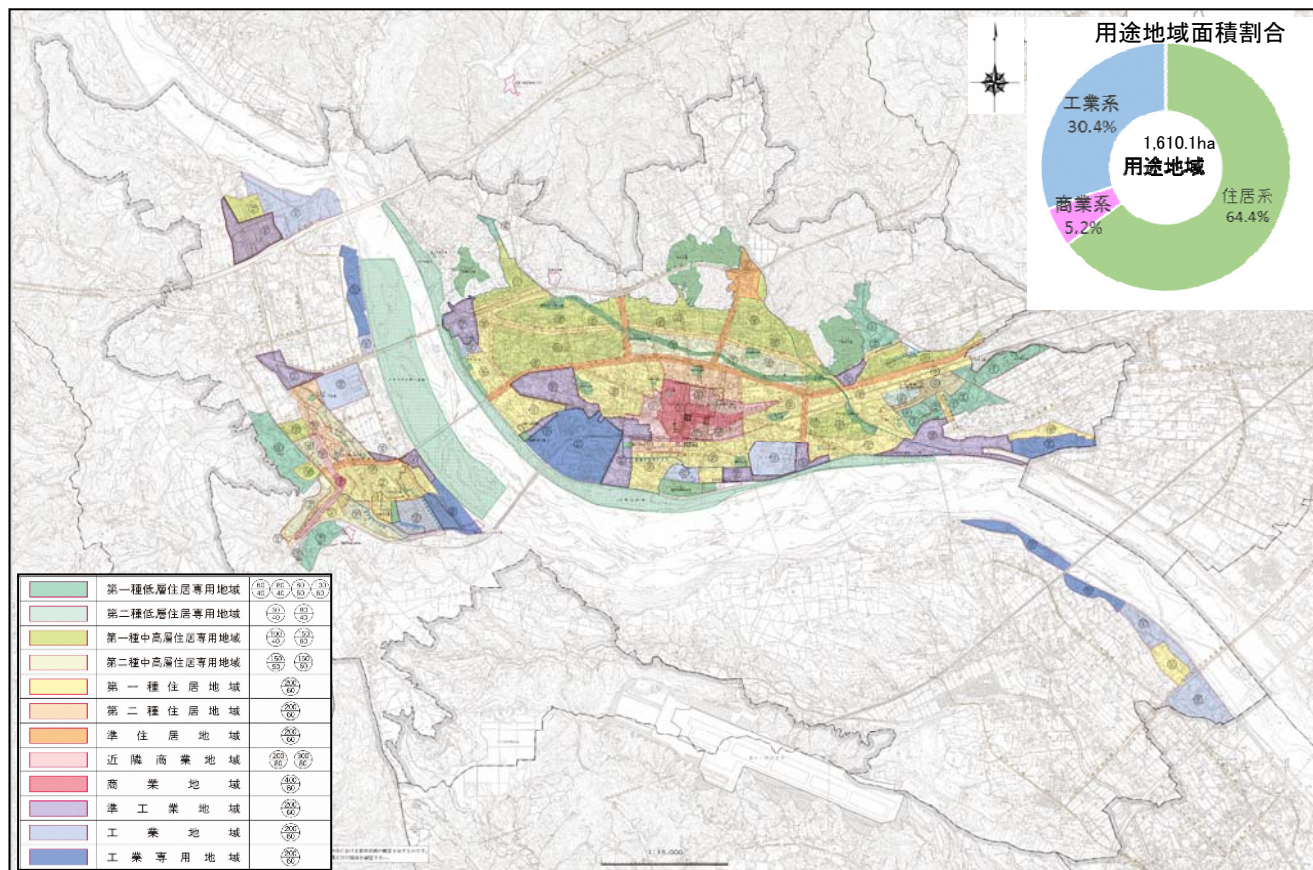
2) 用途地域

本市の用途地域は、住居系が 64.4%、工業系が 30.4 %、商業系が 5.2 %の割合になっています。

また、商業系の用途地域は、主に島田駅周辺及び金谷駅周辺を指定し、工業系の用途地域は、主に大井川沿いを指定しています。

なお、2018 年（平成 30 年）には、新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺において、用途地域を拡大しています。

図 用途地域図

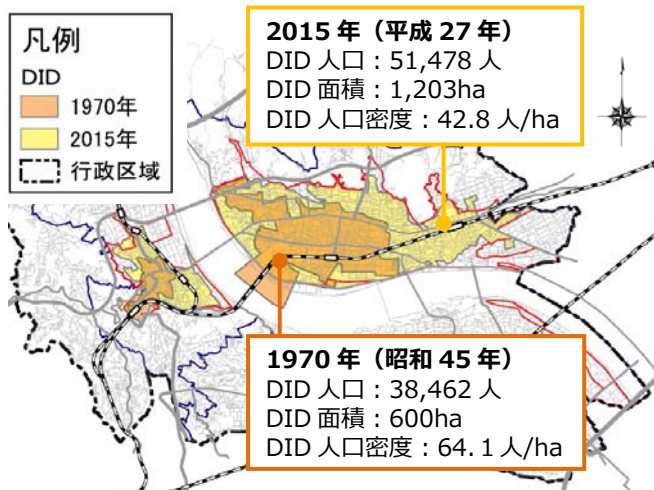


3) 住宅市街地

本市の人口集中地区（DID）については、1970 年（昭和 45 年）から 2015 年（平成 27 年）までの 45 年間で約 2 倍に増加しています。

人口密度については、この 45 年間で 64.1 人/ha→42.8 人/ha に低下しています。

図 人口集中地区(DID)の変遷



出典：国勢調査

4) 開発動向

本市の面的な整備面積は、用途地域面積の約 16%に当たる約 247ha となっています。

また、1986 年（昭和 61 年）からは、市街地開発事業等（土地区画整理事業等）及び公的宅地開発に新たな動きはなく、民間の開発行為等のみで面積が増加しています。

なお、住宅地開発については、用途地域の内・外で行われています。

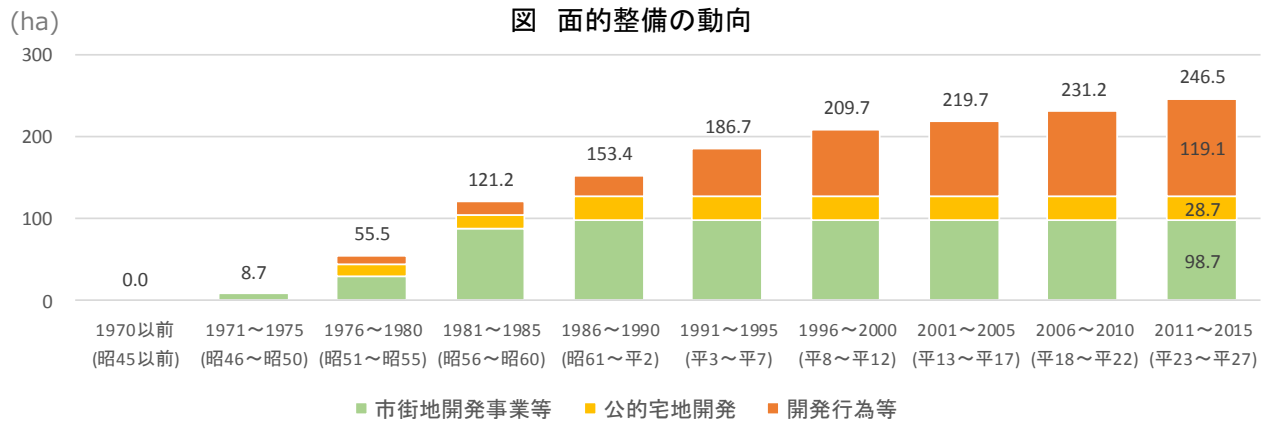
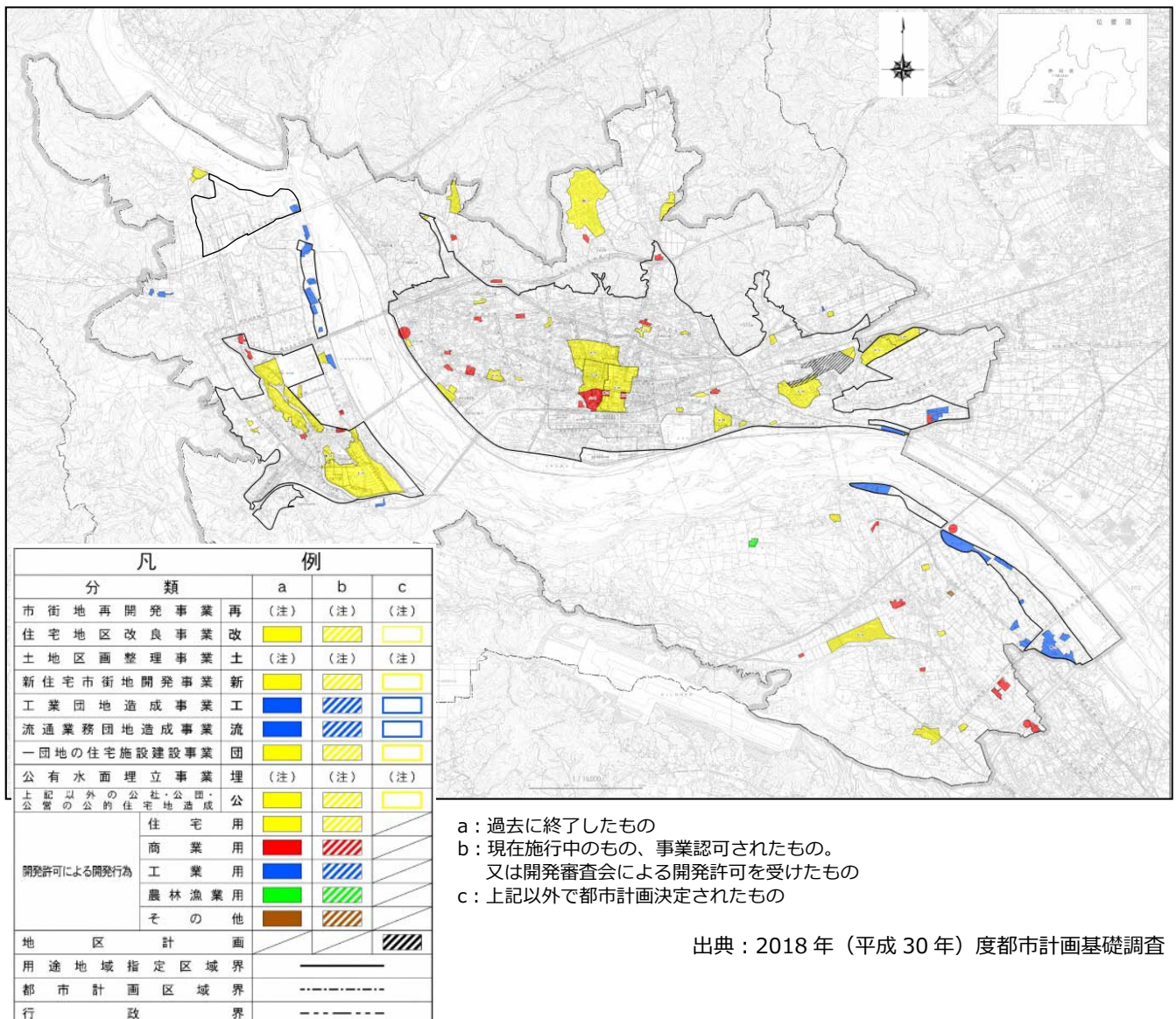


図 面的整備区域



(3) 生活サービス施設、公共公益施設

1) 生活サービス施設

医療施設については、病院が1箇所（島田市立総合医療センター）のみで、そのほかは診療所が市街地、集落地の各所に分布しています。

高齢者福祉施設（通所系施設、訪問系施設、小規模多機能施設）については、市街地、集落地の各所に分布しています。

スーパーマーケットなどの商業施設は、主に用途地域内の幹線道路沿道に分布しています。

また、これらの施設の利用しやすい徒歩圏の人口カバー率は、人口集中地区（DID）においては約9割をカバーしています。

しかし、都市計画区域内のDID以外では、特に商業施設のカバー率が低くなっています。

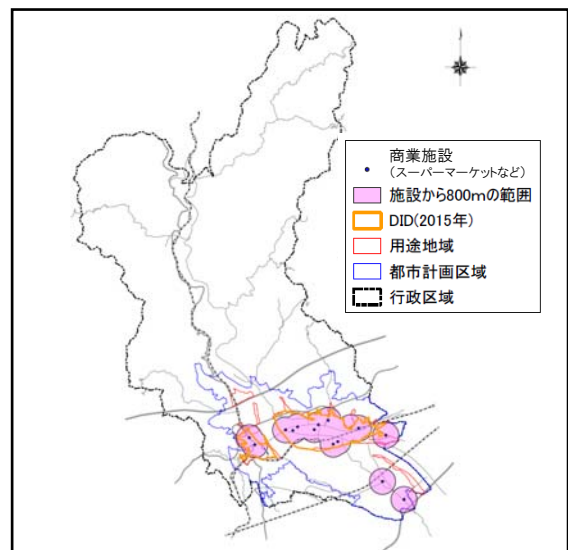
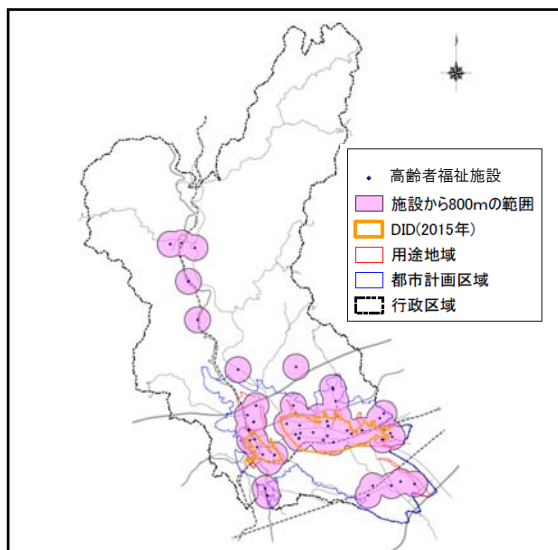
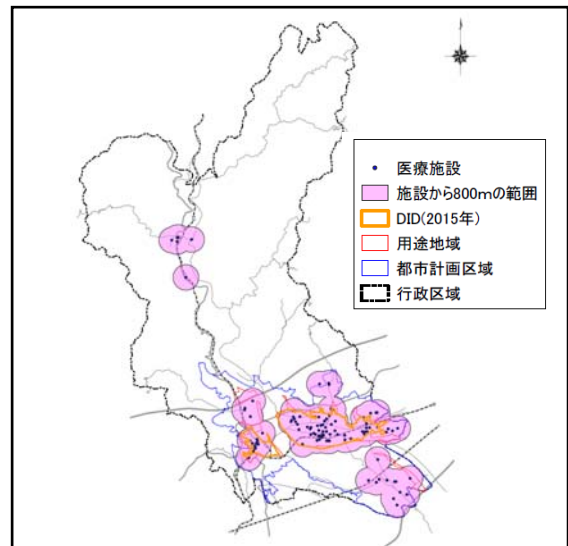
※徒歩圏：「都市交通の評価に基づくハンドブック」における目安

（徒歩10分程度を目安 10分＝800m÷80m/分、不動産の表示に関する公正競争規約施行規則より）

表 生活サービス施設の各区域における人口カバー率

	医療施設 (106施設)	高齢者 福祉施設 (61施設)	商業施設 (スーパー マーケットなど) (店舗面積1,000㎡以上) (15施設)
DID内 (人口集中地区)	98%	98%	89%
都市計画区域内 DID外	82%	73%	36%
都市計画区域 全体	91%	87%	66%
行政区域全体	84%	82%	58%

出典：国土数値情報、全国大型小売店総覧（週刊東洋経済）などを元に作成



2) 子育て支援施設

保育園等の子育て支援施設は、市内に 37 箇所があります。2018 年（平成 30 年）4 月時点では、児童待機は発生していません。

表 子育て支援施設の設置状況

分 類	箇所数（園）	定 員（人）
保育園	17	1,712
認定こども園（保育園部）	5	233
幼稚園	4	830
認定こども園（幼稚園部）	5	725
地域型保育所	6	72
計	37	3,572

※2018 年（平成 30 年）4 月 1 日現在

3) 教育施設

市内に教育施設は、小学校 18 校、中学校 8 校、高等学校 5 校、専修学校 1 校、専門学校 1 校がありますが、大学はありません。

本市に居住する 15 歳以上の学生のうち、市内に通学する学生の割合は約 48%で、半数以上が市外へ通学しています。一方、他市町に居住し本市へ通学している学生の割合は約 53%となっています。

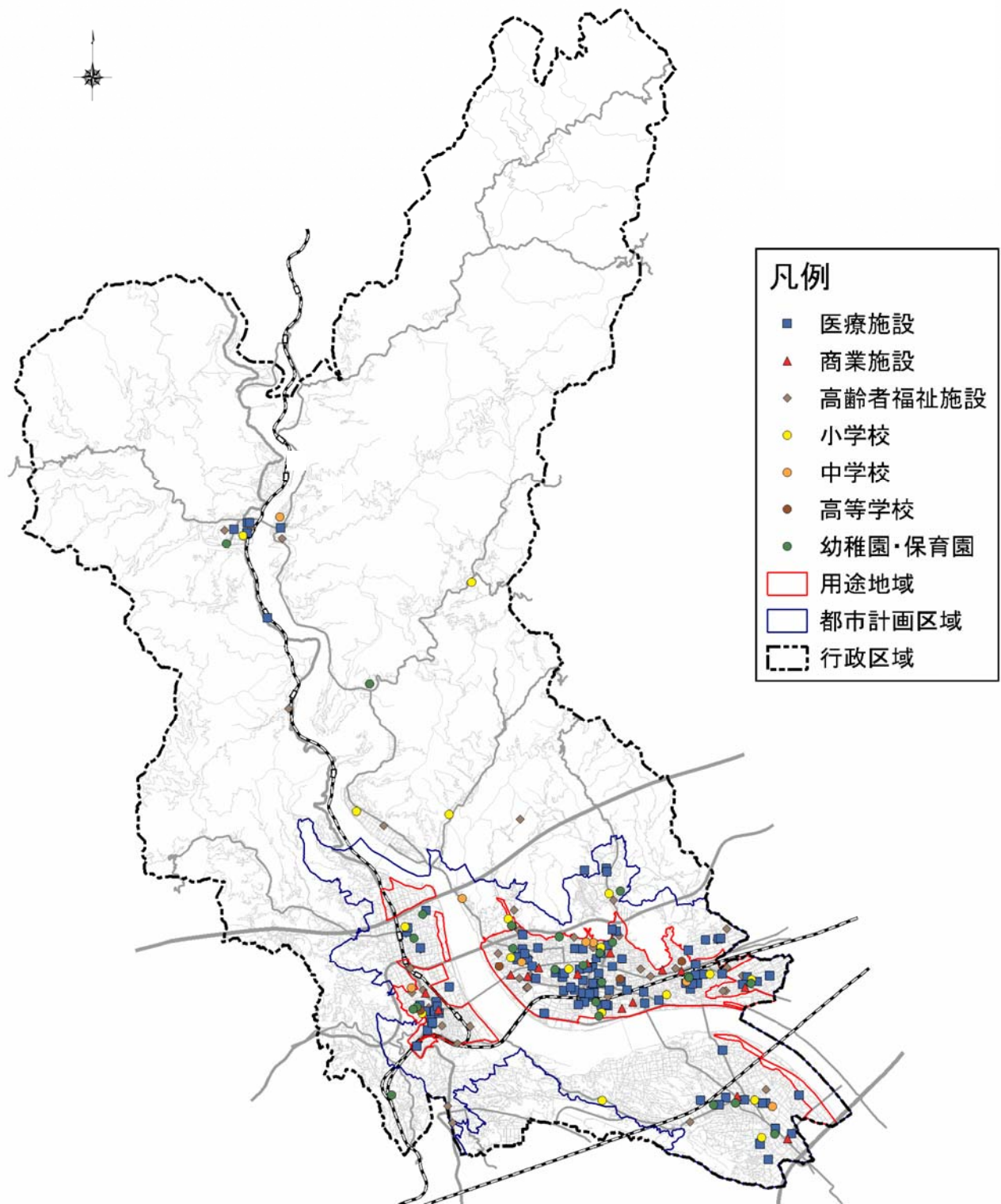
本市と他市町間において通学流動量の多い市町は、藤枝市、焼津市、静岡市の順となっています。また、周辺都市への通学流出口は 2,121 人、周辺都市からの流入人口は 1,728 人で流出超過となっており、特に静岡市への流出超過が顕著となっています。

表 教育施設の設置状況

分 類	箇所数（校）
小学校	18
中学校	8
高等学校	5
専修学校	1
専門学校	1
大学	0
計	33

※2018 年（平成 30 年）4 月 1 日現在

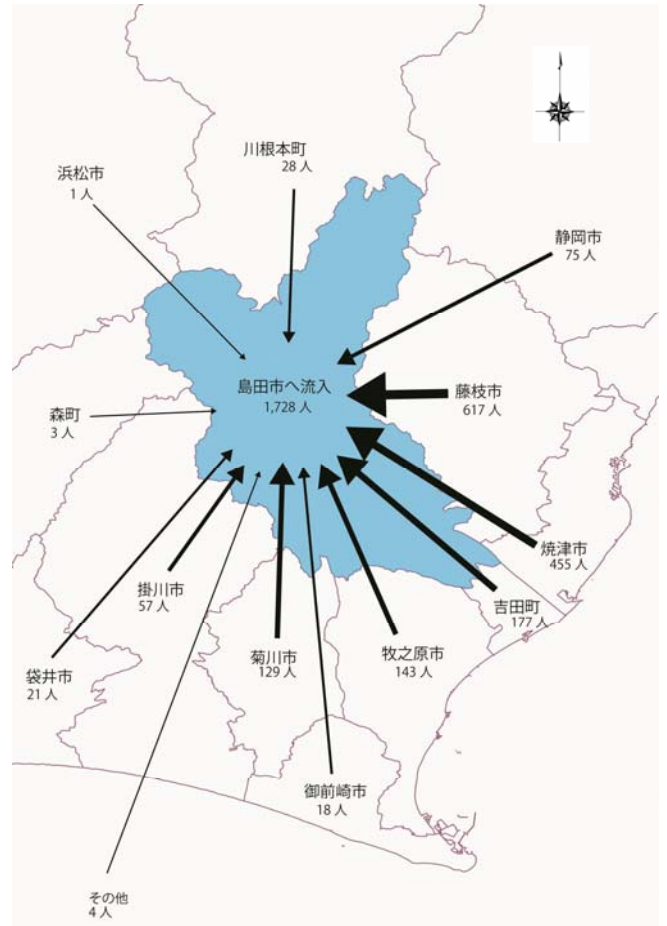
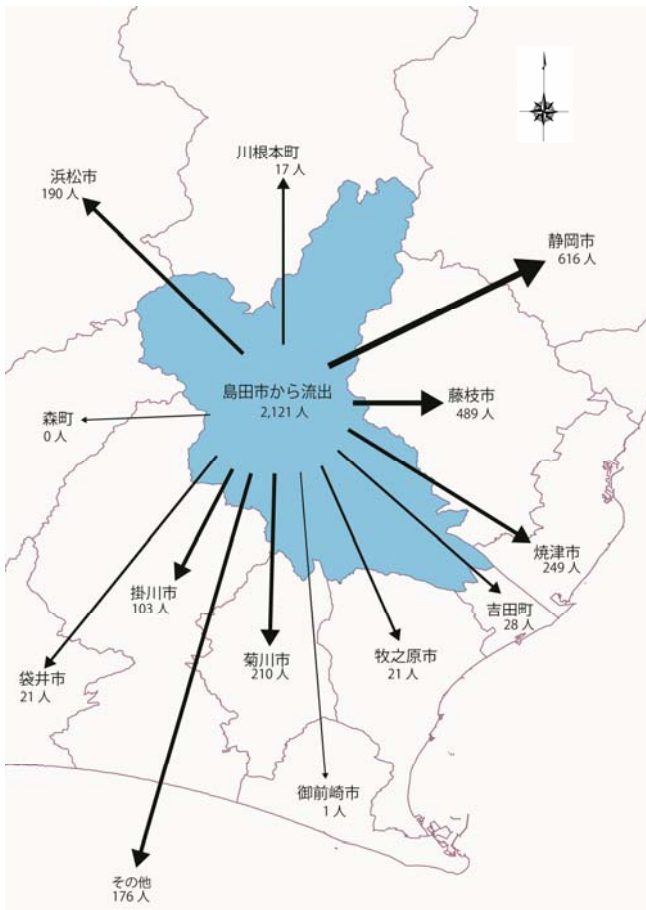
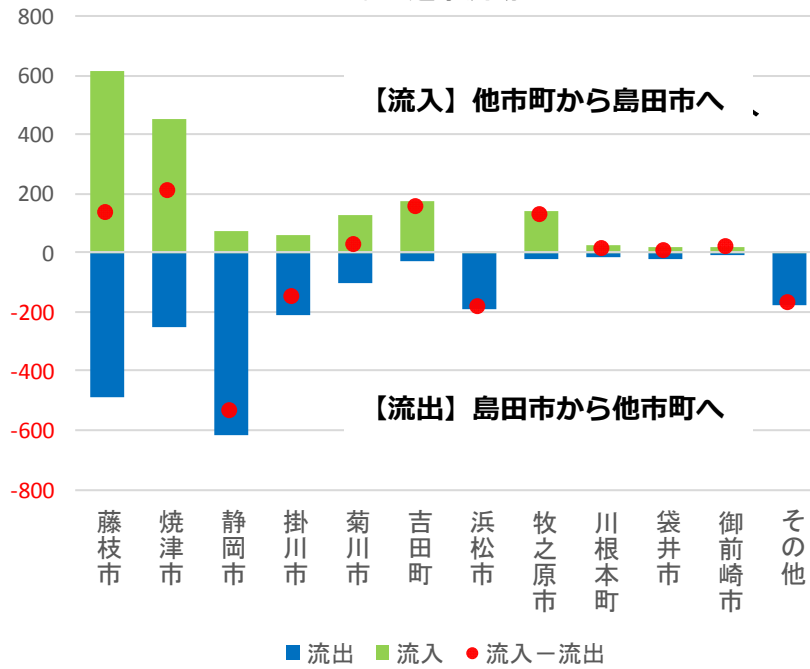
図 生活サービス施設、公共公益施設分布図



出典：国土数値情報（国土交通省）、全国大型小売店総覧（週刊東洋経済）

※商業施設は、店舗面積 1,000 m²以上のスーパーマーケットなどを抽出

図 通学流動



※ 島田市に居住している人が島山市内に通学している人数は1,941 人

出典：2015 年（平成 27 年）国勢調査

(4) 都市基盤

1) 道路

本市の主要道路網は、新東名高速道路、国道1号、一般県道島田岡部線及び東名高速道路が東西に横断しており、これらを南北に連絡する国道473号、主要地方道島田川根線及び島田吉田線によって構成されています。

また、本市の都市計画道路は、45路線、92,160mが都市計画決定されており、改良済区間は全体の66.4%、概成済まで含めると88.7%になります。

表 都市計画道路の整備状況

路線数	45 路線
計画	92,160m
改良済	61,225m
概成済	20,540m
未整備	10,395m

出典：平成30年度都市計画のあらまし

図 主要道路網図

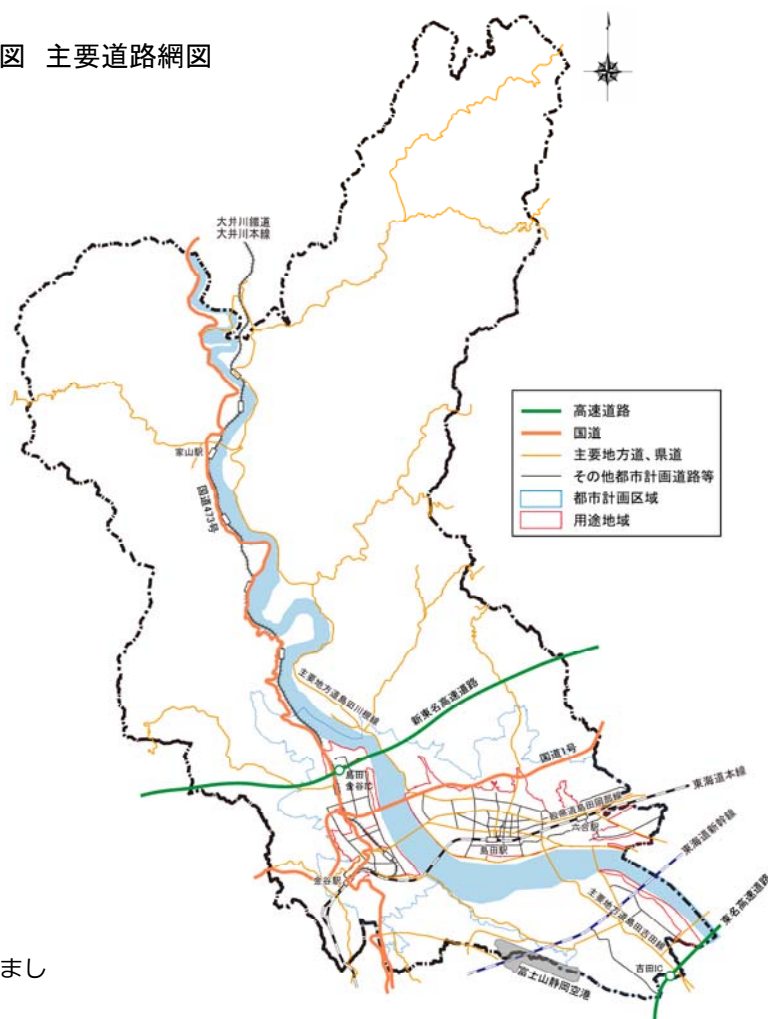
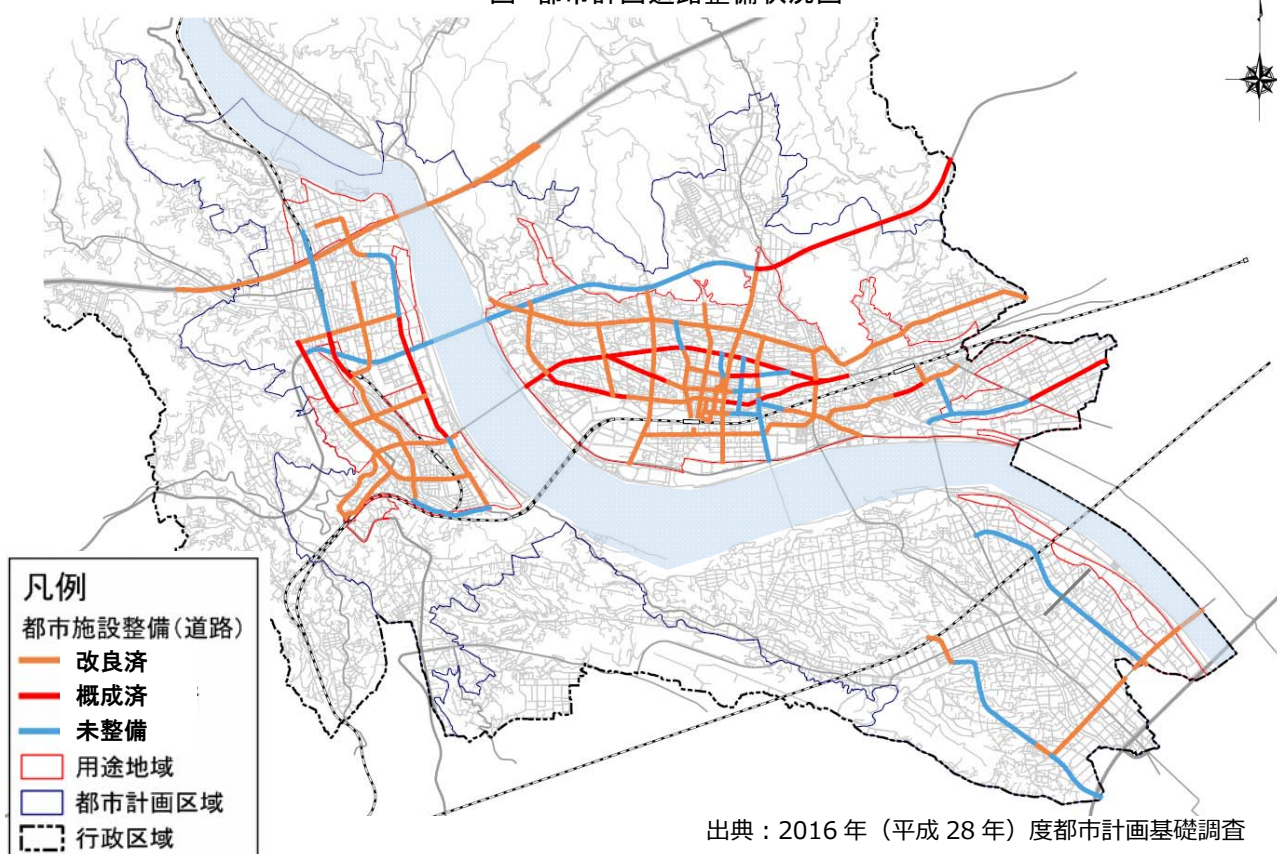


図 都市計画道路整備状況図

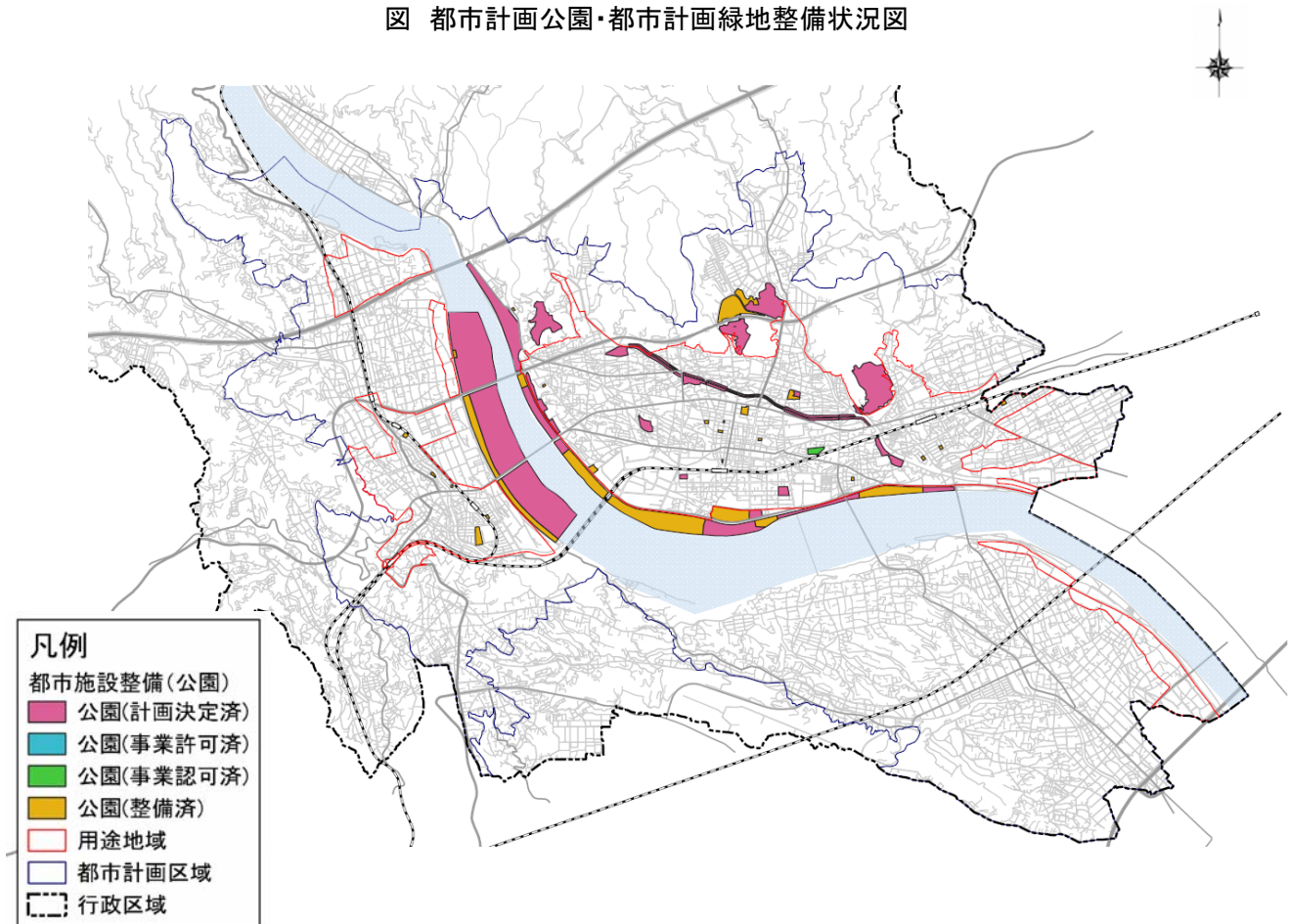


出典：2016年（平成28年）度都市計画基礎調査

2) 公園緑地

本市が都市計画決定している公園・緑地の面積は、364.21ha あり、うち整備済の面積は約 73ha（整備率：20%）になっています。

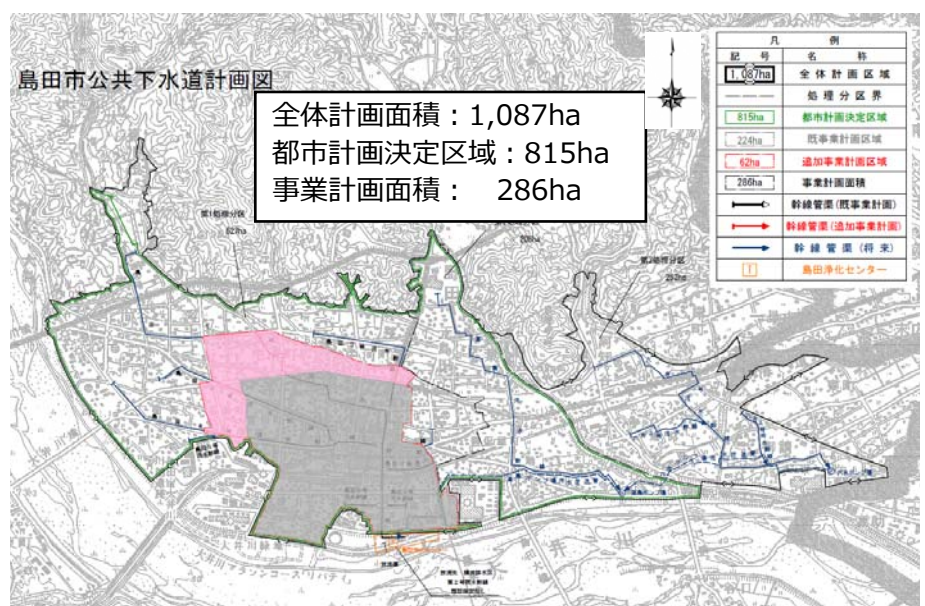
図 都市計画公園・都市計画緑地整備状況図



出典：2016 年（平成 28 年）都市計画基礎調査

3) 下水道

本市が都市計画決定している公共下水道区域は、大井川左岸の用途地域内に 815ha あり、うち 286ha で整備を進めています。

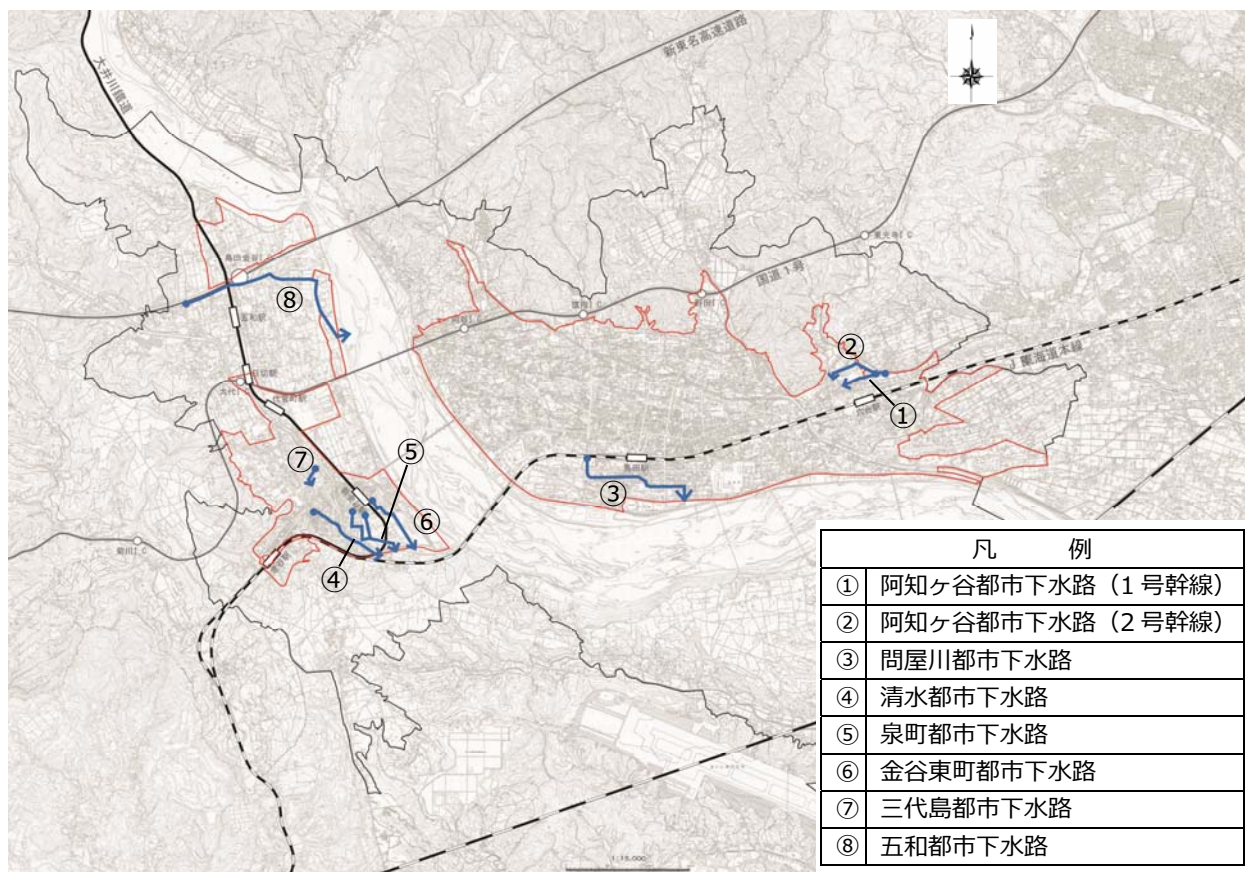


出典：島田市公共下水道全体計画区域図

4) 都市下水路

生活環境の改善及び浸水や洪水などの災害を防ぐために、問屋川都市下水路や五和都市下水路など都市下水路の整備が完了しています。

図 都市下水路整備状況図



(5) 交通

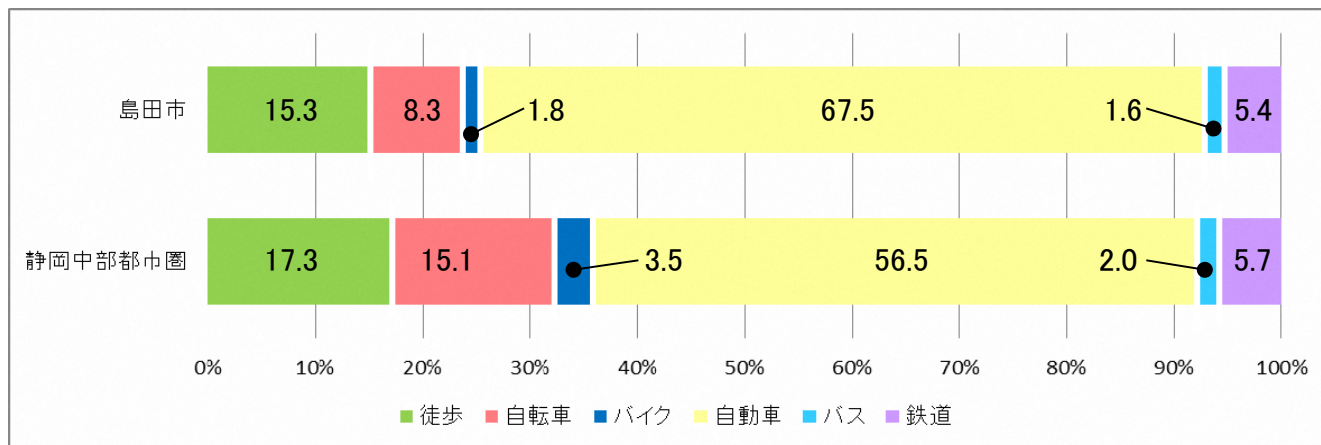
1) 交通手段

本市の主な交通手段は、自動車によるものが多く、2012年（平成24年）のパーソントリップ調査の結果では自家用車による移動割合は約68%でした。これは、静岡中部都市圏（静岡市、島田市、焼津市、藤枝市）と比較しても、10%程度高い結果となっています。一方、徒歩・自転車による移動割合は約24%となっており、静岡中部都市圏と比較すると、9%程度低い結果となっています。

また、バスや鉄道などの公共交通を利用する人の割合は7%で、公共交通よりも、自家用車に依存する割合が高い結果となっています。

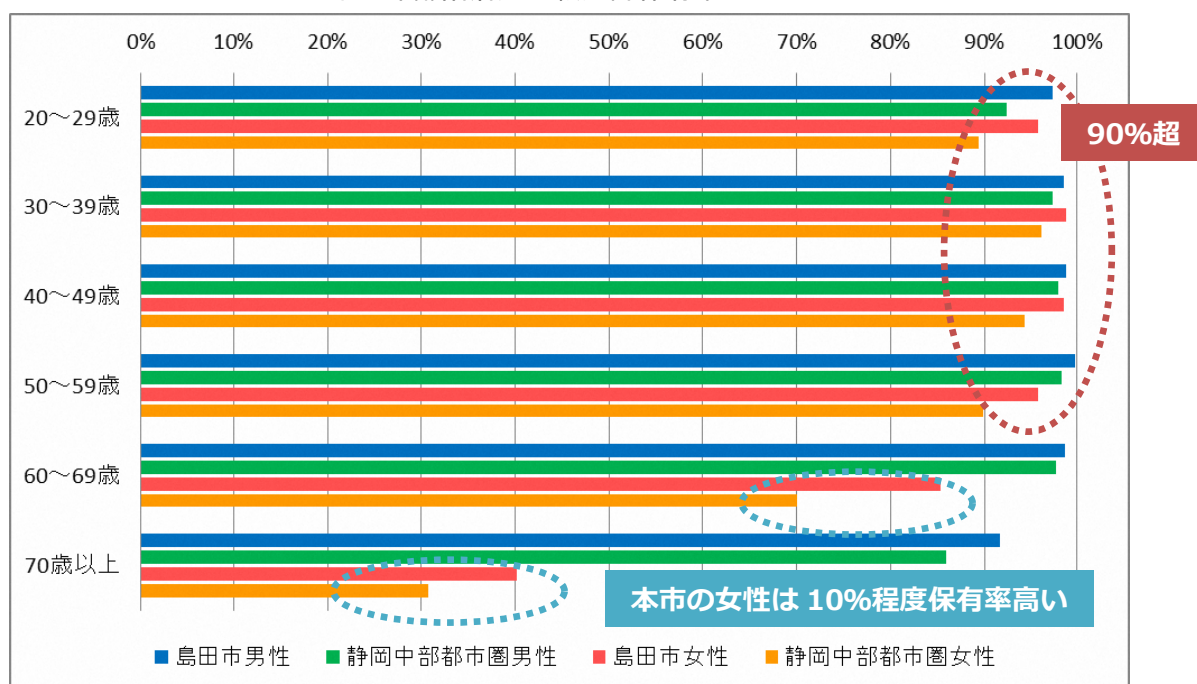
なお、自動車運転免許保有率は60歳未満で概ね90%以上を超えています。特に、60歳以上の女性では、静岡中部都市圏と比較し10%程度高くなっています。

図 パーソントリップ調査による代表交通手段



出典：第4回静岡中部都市圏パーソントリップ調査（2012年（平成24年））

図 年齢階層別運転免許保有率



2) 公共交通

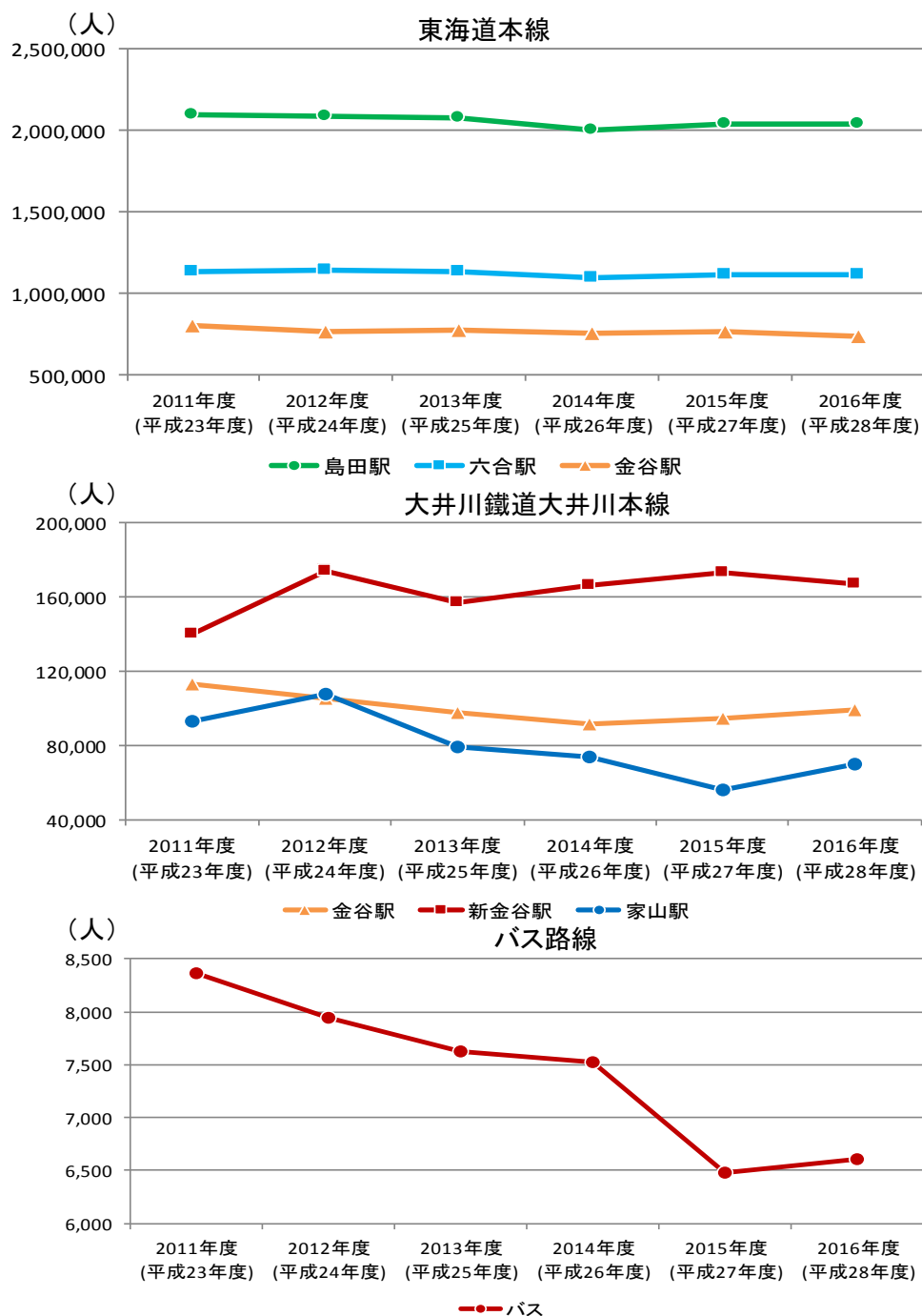
本市の公共交通機関は、市域を東西に横断する東海道本線、大井川に沿って川根本町まで伸びる大井川鐵道大井川本線の2路線によって骨格が形成されており、これを補完するバス路線が市内各地区を連絡しています。

東海道本線3駅（島田駅・六合駅・金谷駅）の乗降客数については、ここ数年概ね横ばいあるいは微減傾向となっています。

大井川鐵道大井川本線については、拠点駅である新金谷駅の利用者数は増加傾向にあります。金谷駅、家山駅については、減少傾向であるもののここ数年は増加傾向にあります。

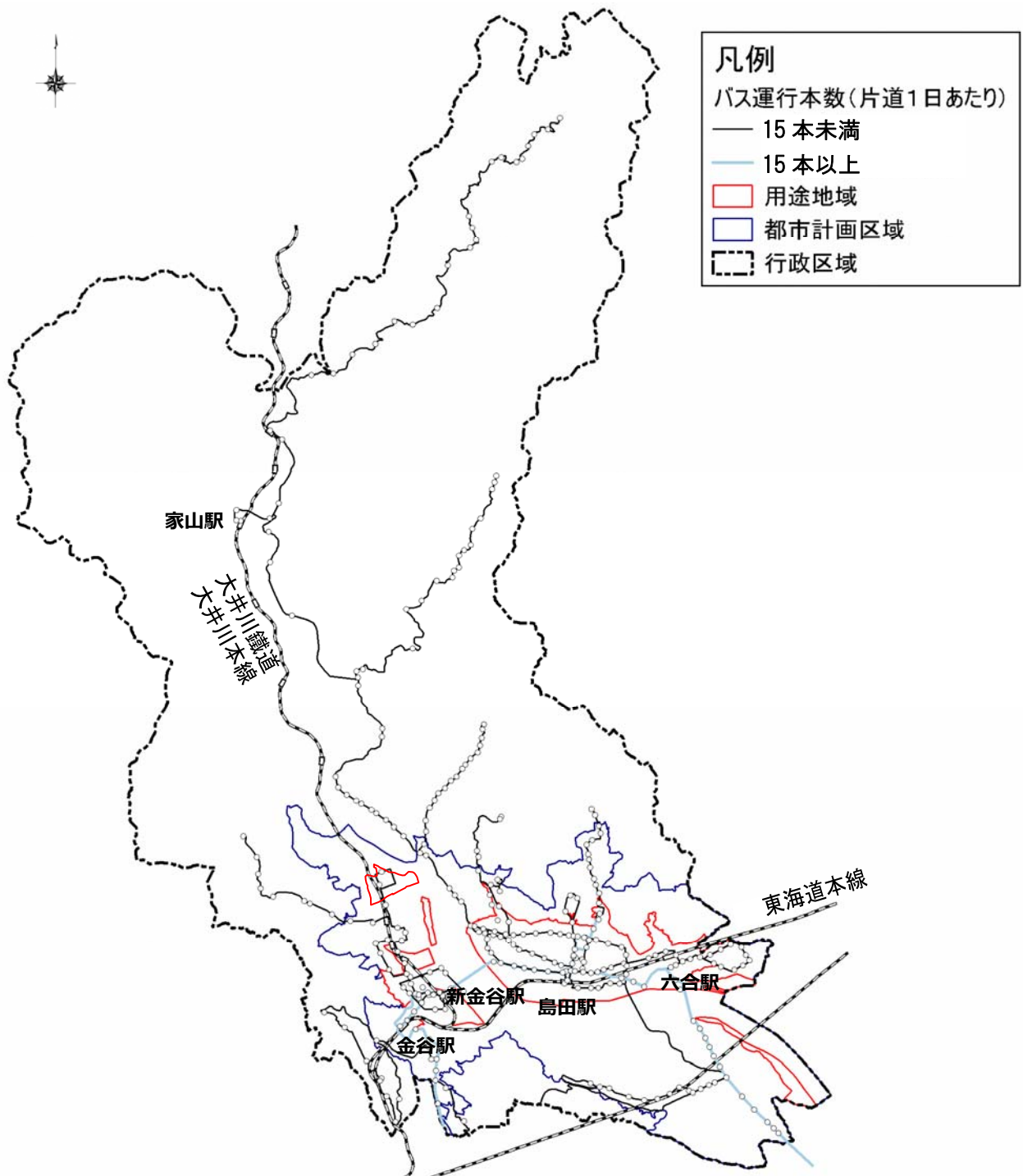
バス利用者数については、減少傾向でありましたが、2016年度（平成28年度）は増加しています。

図 公共交通利用者数の推移



出典：いずれも2017年（平成29年）度版島田市統計書

図 公共交通運行状況図



出典：国土数値情報を元に補正

島田地区
金谷地区
川根地区

島田駅前拡大図

川根温泉郷とスクールバスとの乗換について

●川根バスがバス停で、川根温泉郷のバスでスクールバスで乗換ができます。
 ●スクールバスがバス停で、川根温泉郷のバスで乗換ができます。バス停は、温泉郷バス停にあります。
 ●スクールバスがバス停から川根温泉郷へ2本（湯田山方面）、川根温泉郷からスクールバスへ2本（川根方面）の乗換ができます。

●川根温泉郷 乗換可能な時刻表

バス停	スクールバス	川根温泉郷
川根温泉郷	2本	1本
湯田山	2本	1本
川根温泉郷	9:29, 10:54	10:00
湯田山	10:15, 11:40	10:00

スクールバスの時刻表は、毎月川根温泉郷に2回掲載されます。スクールバス時刻表で確認してください。

この地図は、神奈川県立博物館（Kanagawa Prefectural Museum）の周辺地図です。博物館の位置は、神奈川県庁（Kanagawa Prefectural Office）の隣にあり、横浜（Yokohama）と横浜（Yokohama）の間に位置しています。地図には、博物館の建物、周辺の道路、公園、そして他の公共施設が示されています。また、地図には、博物館の周辺にあり、博物館の建物、周辺の道路、公園、そして他の公共施設が示されています。

路線名	行き先
自主運行	小じのくに森の都ミュージアム、国土庁、西沢邸、その他上村良寛先生方
新駅バス	小じのくに森の都ミュージアム、上地、山崎、森田氏方
金谷駅前路線	金谷寺、自由河原寺、田原村、良田市民会館方面
新宮(小)会館線	栄町、夢づくら会館、横田町方面
金谷会館線	金谷会館、新金谷駅方面
大代線	寺幸寺、五和、奥金谷会館方面
福川町線	小じのくに森の都ミュージアム、福川町、良田、神谷氏方

島田市自主運行路線

- 赤線 京都渡船回線
- 赤線 伊久身線
- 青線 川邊温泉線
- 青線 相賀線
- 紫線 田代の郷温泉線
- 紫線 金谷循環線
- 紫線 大代線
- 紫線 夢つくり会館線
- 紫線 菊川神谷循環線
- 紫線 大津線
- 紫線 島田駅東線
- 紫線 六倉南線
- 紫線 通日線
- 紫線 成茂線
- 紫線 柳原田線

青いタ
ウ
エリア

しずてつジャストライン

- 青線 金谷島田循環線
- 青線 島田伊豆線
- 青線 島田山崎間空港島田線

のりば	路線名	行先
北口①	コミュニティバス田代の郷線	向谷元、伊太田池、伊太和田の湯方面
	コミュニティバス相賀線	大津浦、はなみずき、三ツ合、上相賀方面
	コミュニティバス湯田線	御飯屋、六合駅、本村方面
	島田駅東線(ジャンボタクシー)	元島田、旭町、宝来町、島田駅南口方面
	宝来島田両駅線	島田河原町、金谷東町、金谷駅方面
北口②	コミュニティバス伊久身線	向谷、神達、山の家、郷聖堂方面
	コミュニティバス川根湯田線	稲荷町、神座、山の家、宝来川根、川根湯田方面
	コミュニティバス大津線	中央公園、島田市民病院、天徳寺方面
	島田緑波線	島田市民病院方面
	宝来島田両駅線	島田市民病院方面
北口③	島田緑波線	旭町、色色、吉田IC、静波海岸方面
南口①	富士山静岡空港島田線	富士山静岡空港方面
南口②	島田駅東線(ジャンボタクシー)	宝来町、旭町、元島田、島田駅北口方面

当館資料・漢口船のわたりは、左の表裏の2枚に表裏に印刷さ

This map shows the Minami-Aomori Station area. The station complex is centrally located, with tracks running horizontally. To the north, the Aomori Bay Bridge is visible. The map includes labels for various streets, schools (e.g., Aomori University, Aomori University of Education), hospitals (e.g., Aomori Bay Bridge Hospital), and other landmarks. The station is highlighted with a red circle and labeled '南小田原駅'.

島田駅周辺拡大図

路線名	行き先
コニヤのり 瀬口橋	舞田駅方面 道悦橋、谷口、色路、月夜、木村方面
六合南橋 (ジャンボタクシー)	六合小学校、東町、 六合東小学校方面

都市計画区域内の公共交通人口カバー率は、「公共交通便利地域」が約 49%、「公共交通不便地域」が約 31%、「公共交通空白地域」が約 19%となっています。

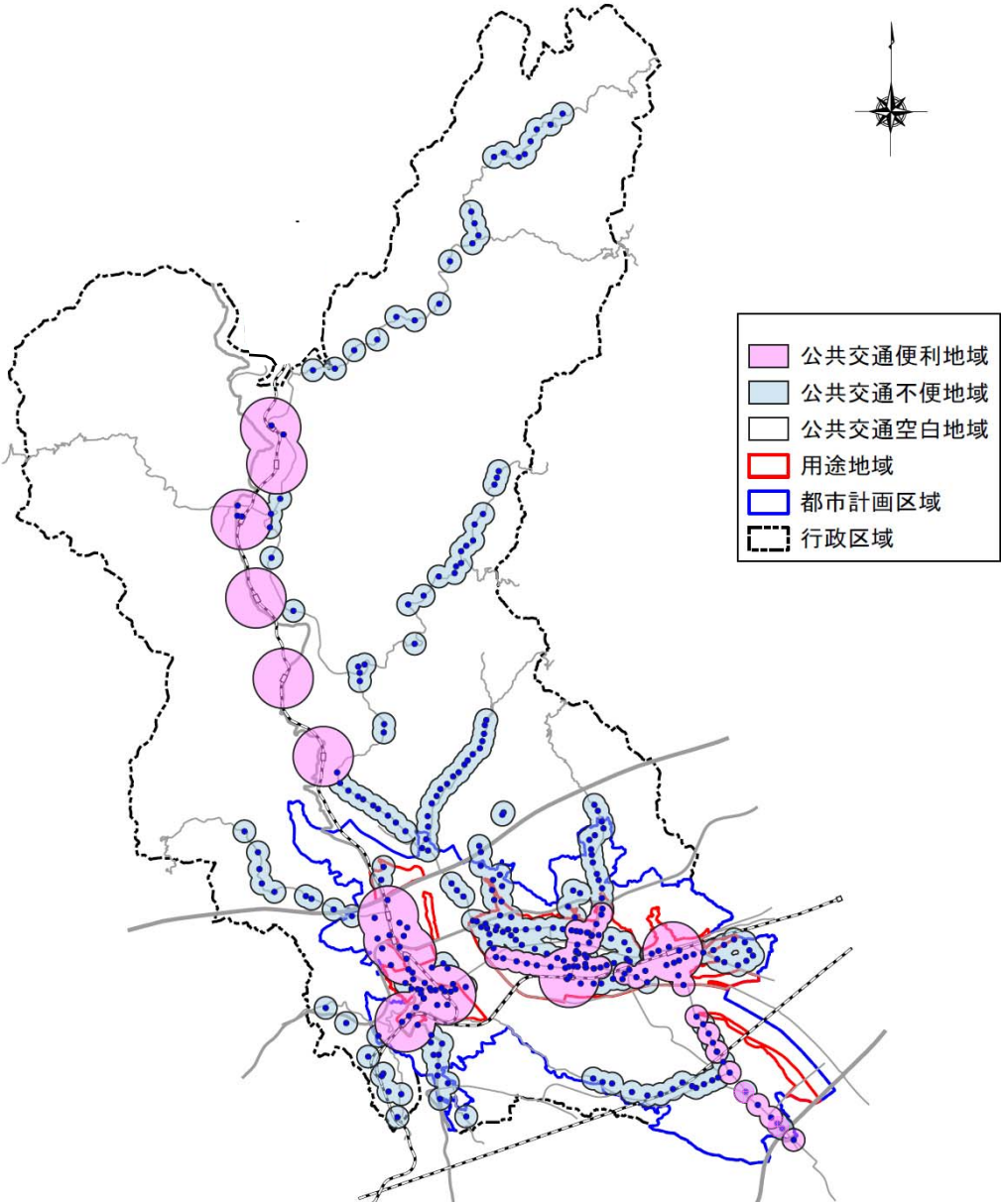
なお、公共交通の利便性は、鉄道駅からの 800m 圏内外、バス停からの 300m 圏内外により、下表のように分類しています。

表 公共交通の利便性に基づく分類と人口カバー率

		バス		
		バス停から 300m圏内		バス停から 300m圏外
		運行本数 15 回／日 （片道）以上	運行本数 15 回／日 （片道）未満	
鉄道	駅から 800m圏内	公共交通便利地域 (H27: 42, 731 人、都市計画区域内人口の約 49%)		
	駅から 800m圏外		公共交通不便地域 (H27: 27, 050 人、都市計画 区域内人口の約 31%)	公共交通空白地域 (H27: 16, 745 人、都市計画 区域内人口の約 19%)

資料：「立地適正化計画の手引き」（平成 28 年 4 月 11 日版、国土交通省）を元に設定

図 公共交通カバー状況図



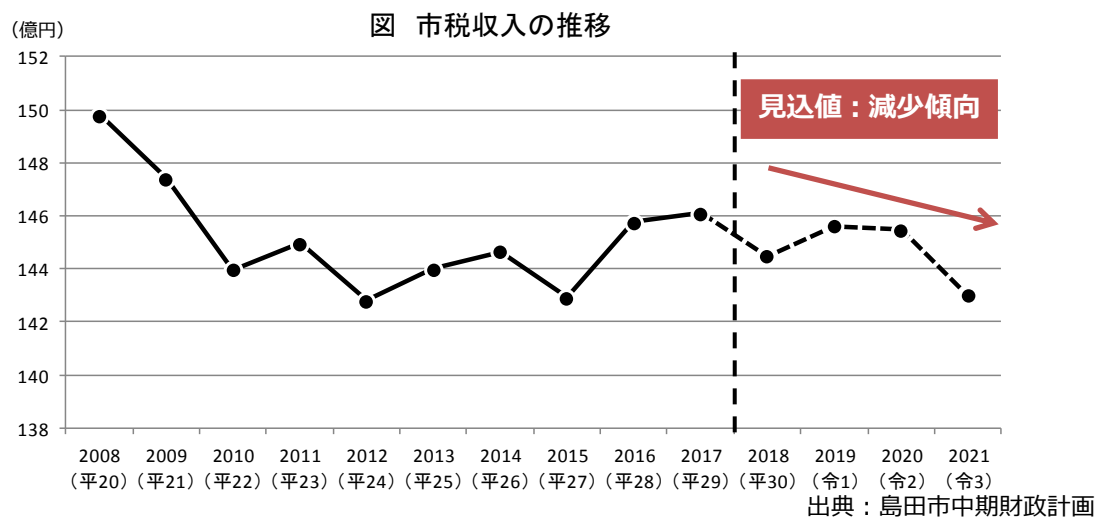
出典：国土数値情報を元に作成

(6) 都市経営

1) 歳入

本市の2008年(平成20年)の市税収入額は、約150億円でしたが、その後増減を繰り返して、2017年(平成29年)度決算では約146億円になっています。

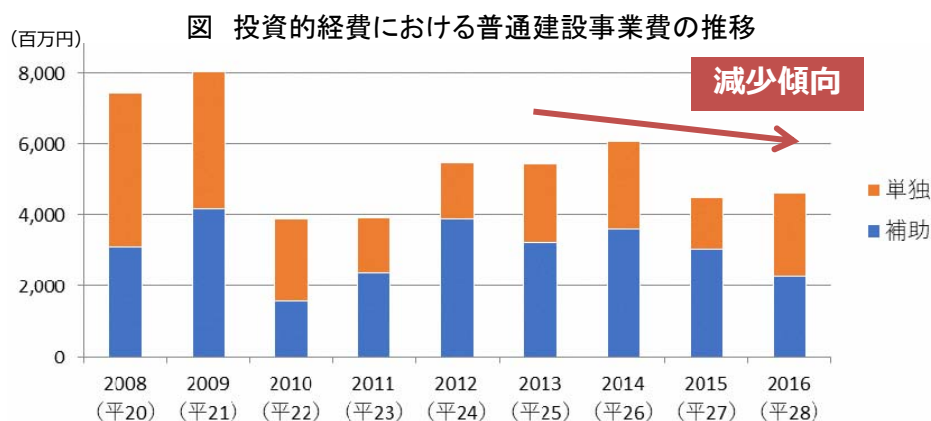
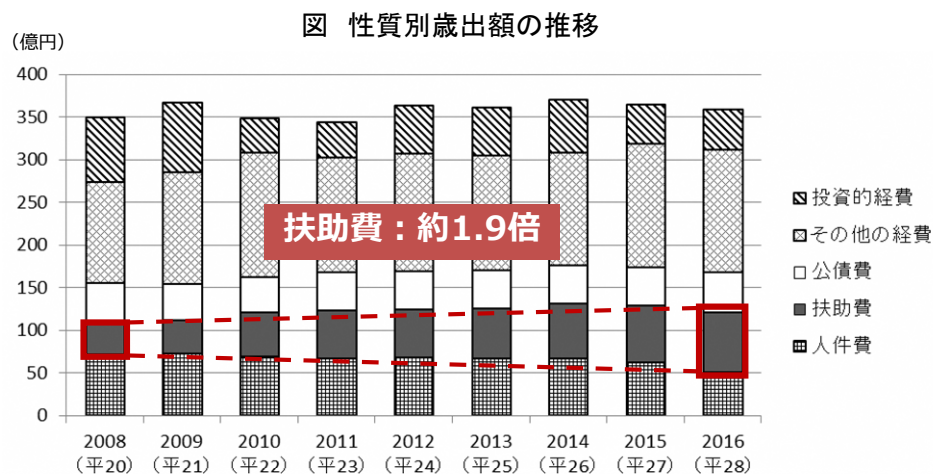
今後は、人口や生産年齢人口の減少などに伴い、減少傾向が続くと推測されます。



2) 歳出

本市の歳出額は、ここ数年約350億円前後で推移していますが、高齢化の進行とともに歳出額に占める扶助費の割合が、2008年(平成20年)度に対して2016年(平成28年)度は約1.9倍に増加しています。

一方、投資的経費における普通建設事業費は、減少傾向が続くと推測されます。



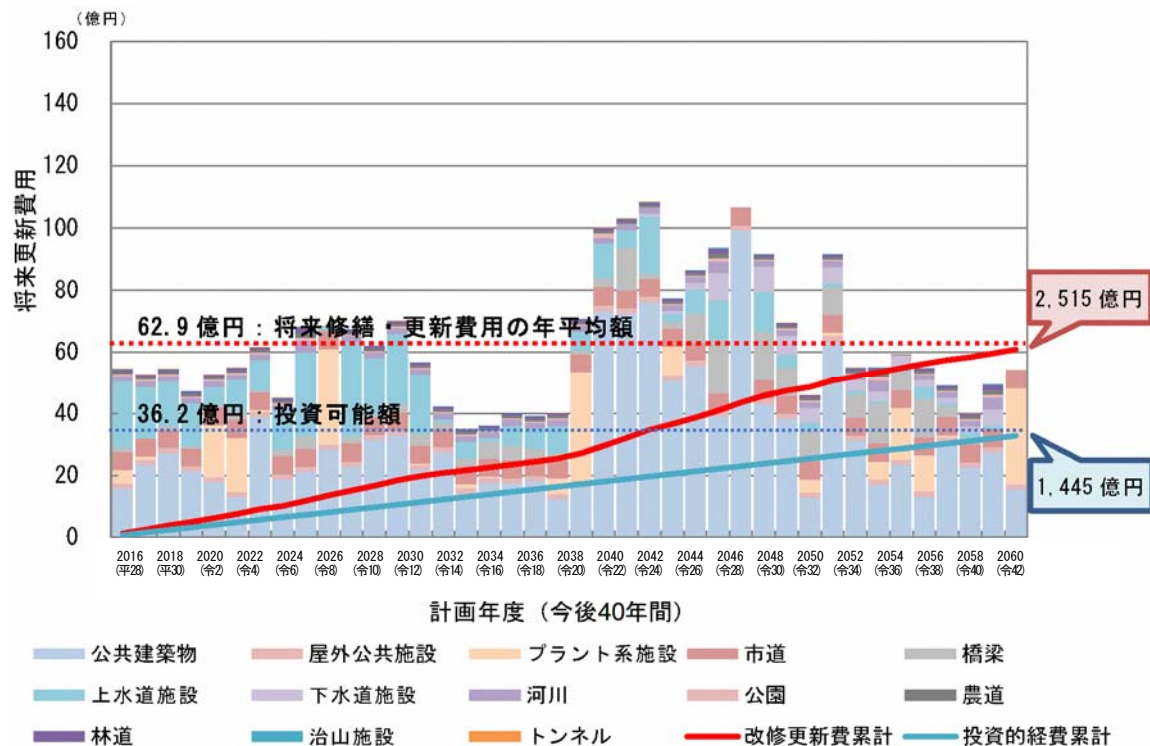
出典：各年度決算状況

3) 公共施設、インフラ維持管理費

本市の投資的経費については、2) 歳出-性質別歳出額の推移から 2012 年（平成 24 年）～2015 年（平成 27 年）度の平均で約 36 億円になっています。

一方、今後 40 年間に必要となる公共施設等の修繕・更新について費用を積算すると、約 2,515 億円、年平均約 63 億円になり、投資可能額を大きく上回ると推測されます。

図 公共施設等の修繕更新費用の将来推計



出典：島田市公共施設等総合管理計画（2016 年（平成 28 年）3 月）

2-2-2 都市の安全安心

(1) 住宅・空き家

本市の住宅数は増加していますが、居住のない住宅の割合も増加しています。このことから空き家は増加傾向にあると推測されます。

また、水道の閉栓中水栓地点は、島田駅や金谷駅を中心とする市街地に多く分布しています。

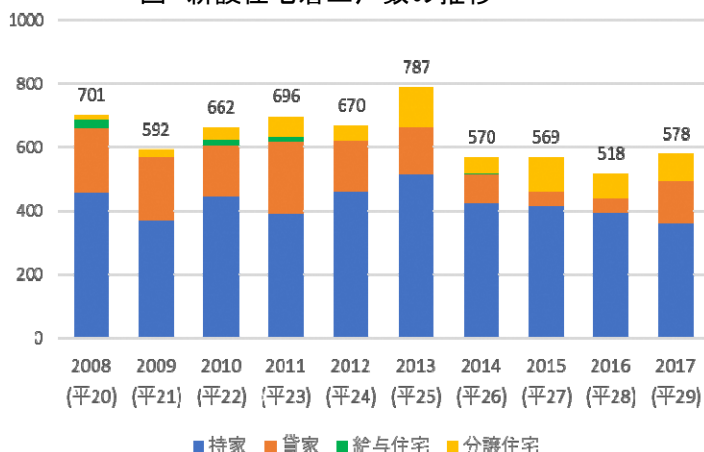
新設住宅着工戸数は、毎年 600 戸前後が新設されています。また、住宅種別では持家が最も多く過半を占めており、続いて貸家が多くなっています。

図 住宅数の推移



出典：住宅・土地統計調査

図 新設住宅着工戸数の推移

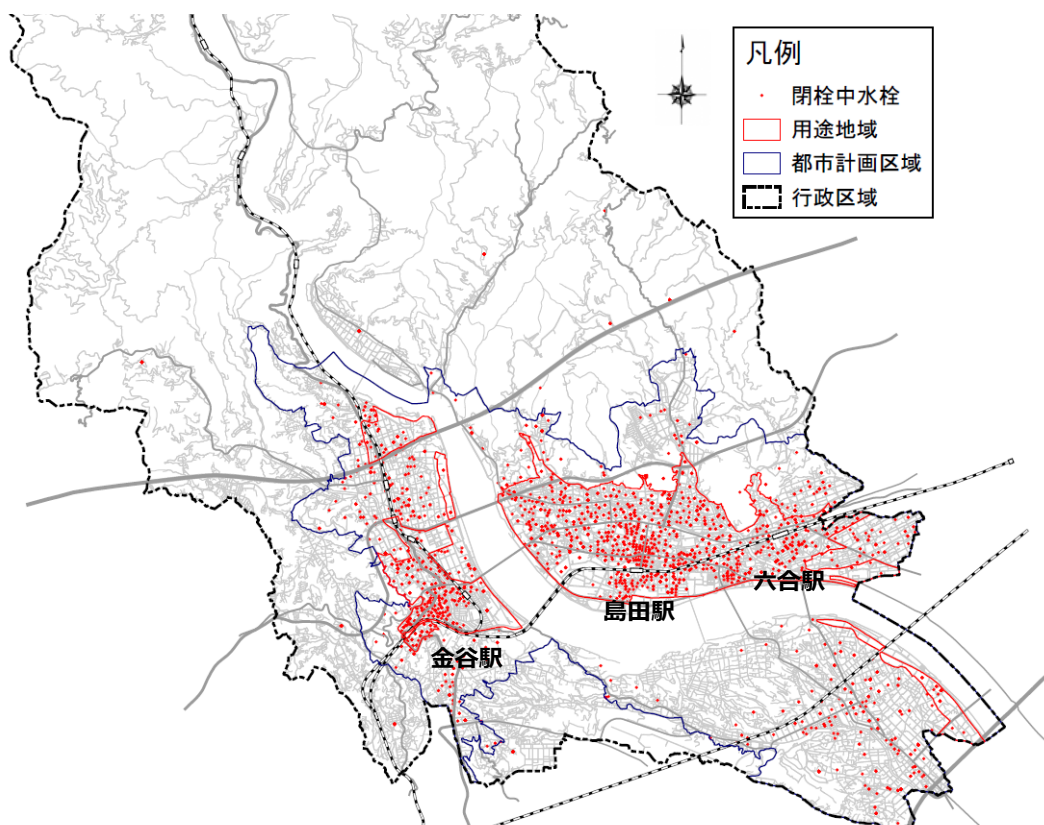


出典：県住まいづくり課

※平成 5 年、10 年は旧金谷町、旧川根町の調査は行われていない。また、平成 15 年は旧川根町の調査は行われていない。

※居住世帯のない住宅は、賃貸や分譲住宅、別荘などの二次的住宅も含む

図 閉栓中水栓の分布図



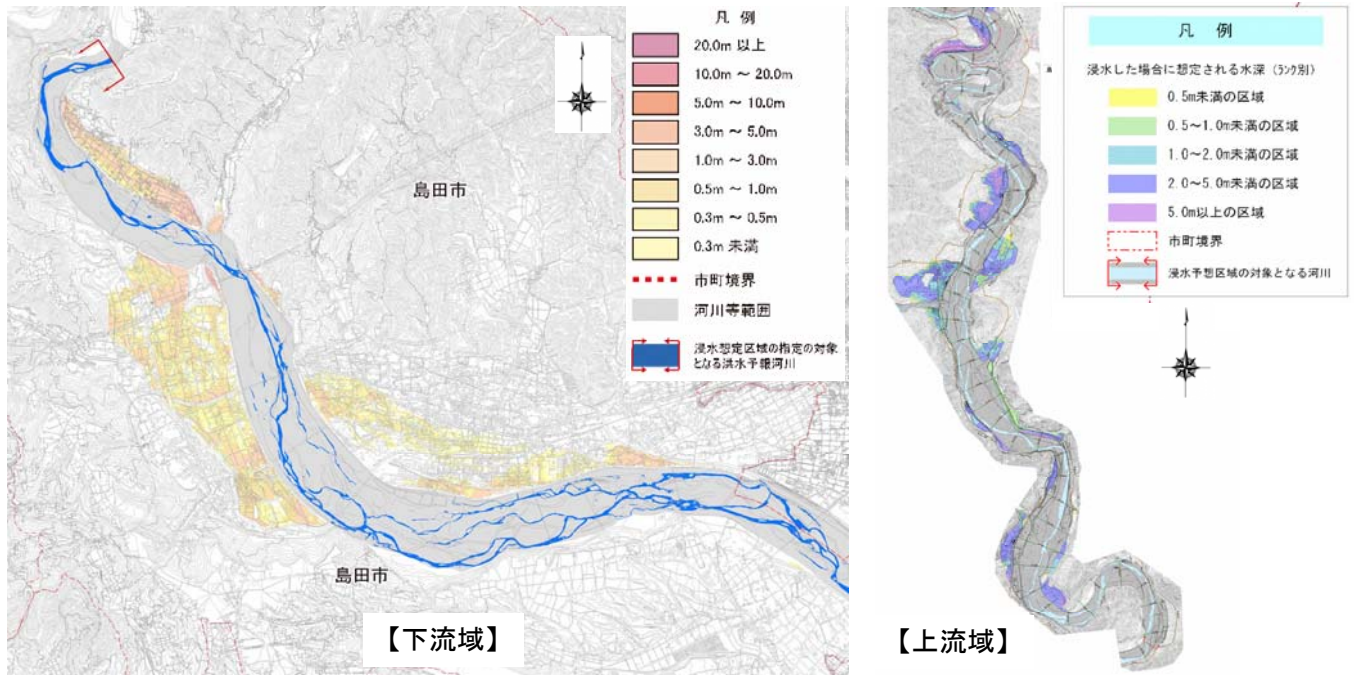
出典：島田市水道課、大井上水道企業団調べ（2018 年（平成 30 年）7 月）

(2) 洪水

大井川洪水浸水想定区域図（1/100 確率降雨相当）によると、市内下流域の市街地周辺では、浸水の高さが0.5m未満のエリアが多く、一部では3.0mを超えるエリアも予測されています。

また、市内上流域においては、浸水の高さが2mを超えるエリアがあります。

図 大井川水系大井川 洪水浸水想定区域図(1/100 確率降雨相当)

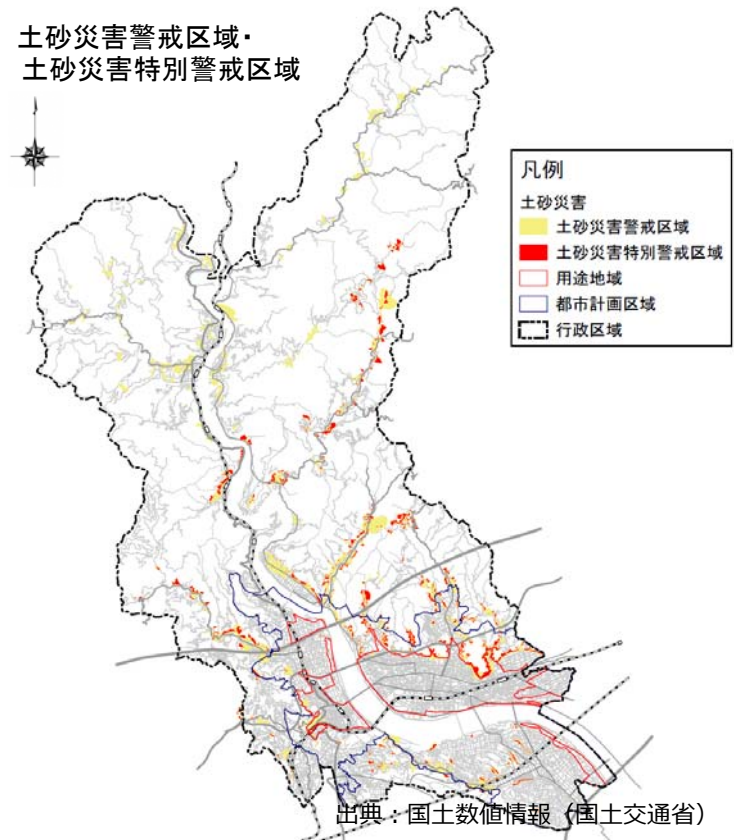


出典：大井川水系大井川 洪水浸水想定区域図（国土交通省、下流域：平成28年5月、上流域：平成24年4月想定）

(3) 土砂災害

本市の土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域は、用途地域内では北側の外周部（丘陵山裾）に多く指定されています。用途地域の外側では、大井川水系の支流に沿った場所で指定されています。

図 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域



出典：国土数値情報（国土交通省）

(4) 地震・液状化

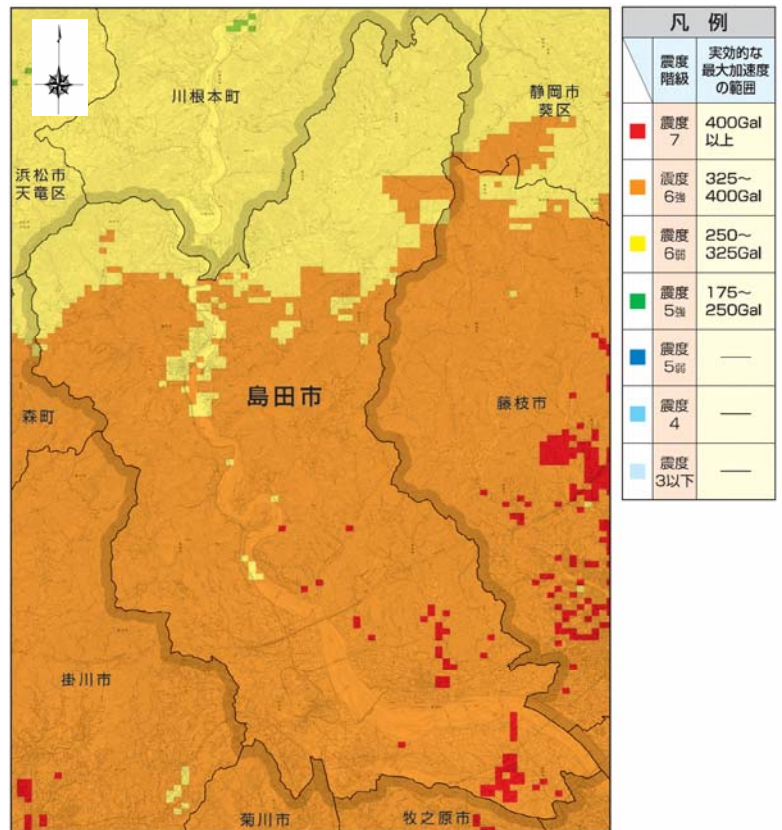
1) 震度分布

南海トラフ地震を想定した震度分布では、本市の大半は震度6強が予測されています。

また、一部では、地盤条件などにより震度7と予測されているエリアがあります。川根地域の北部については、震度6弱と予測されています。

なお、南海トラフ地震による津波の浸水については予測されていません。

図 南海トラフ地震を想定した震度分布



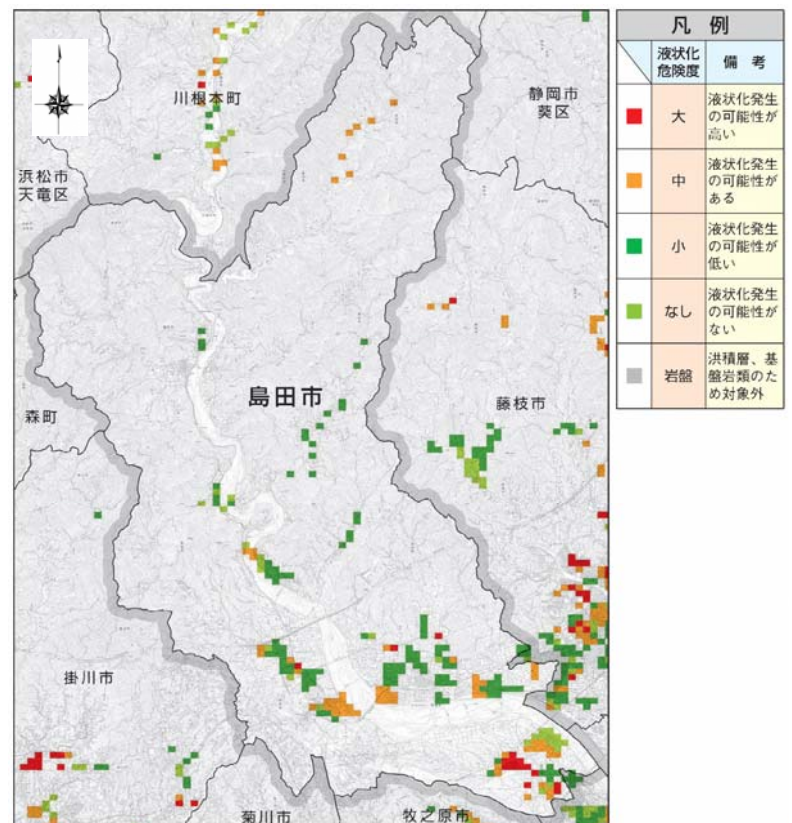
出典：島田市防災ガイドブック

2) 液状化予測

南海トラフ地震を想定した本市の液状化予測では、液状化危険度「大」が初倉地域に、また大井川沿いに液状化危険度「中」又は「小」が分布しています。

市全体としては、地盤が洪積層・基盤岩類のため、液状化予測の対象外となっているエリアが多く、一部を除き液状化の危険性は比較的低くなっています。

図 南海トラフ地震を想定した液状化予測

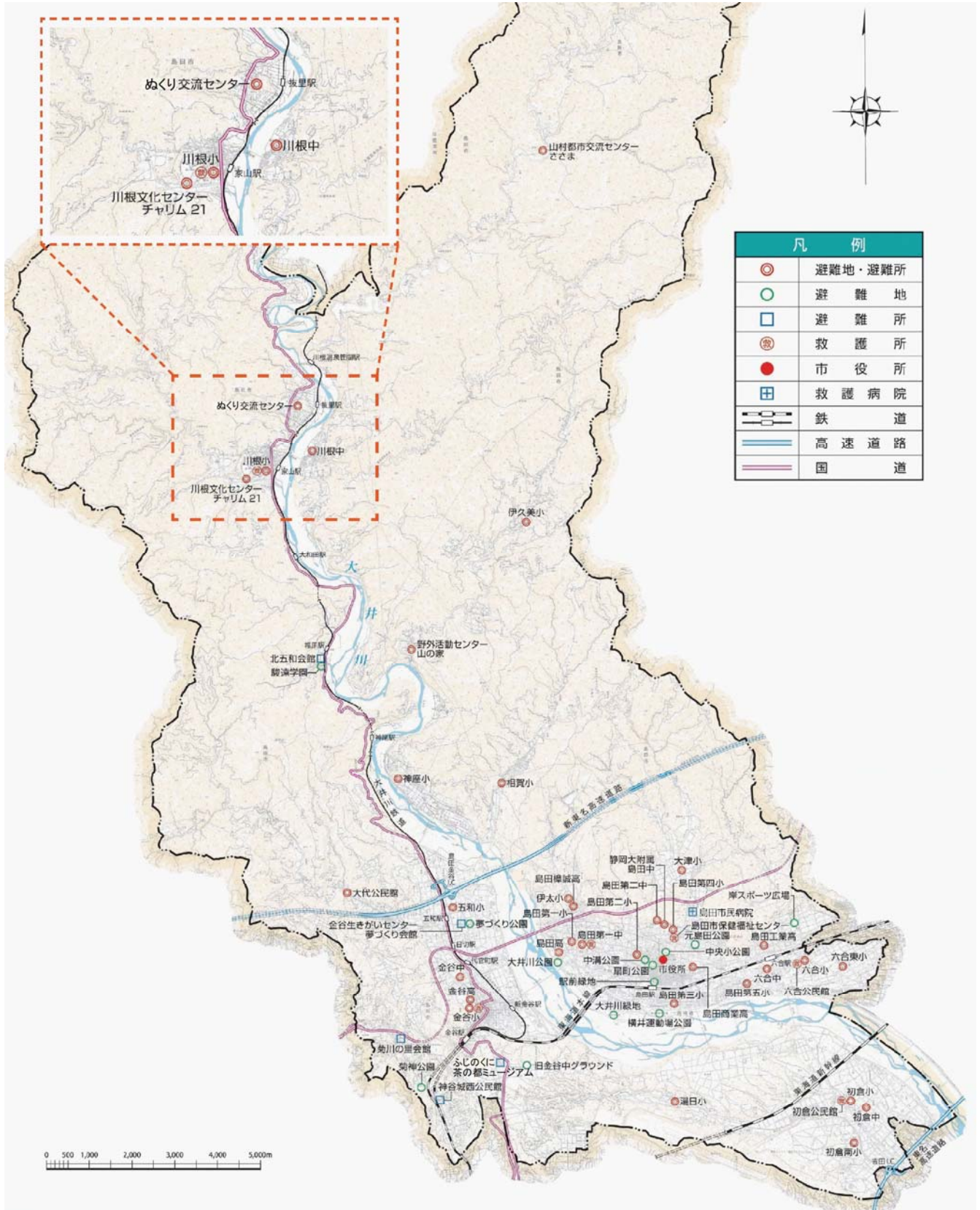


出典：島田市防災ガイドブック

(5) 避難地・避難所

本市の避難地（指定緊急避難場所）及び避難所（第一次指定避難所）は、主に小中高の学校、公園、公民館及び交流センターを指定しています。

図 避難地・避難所

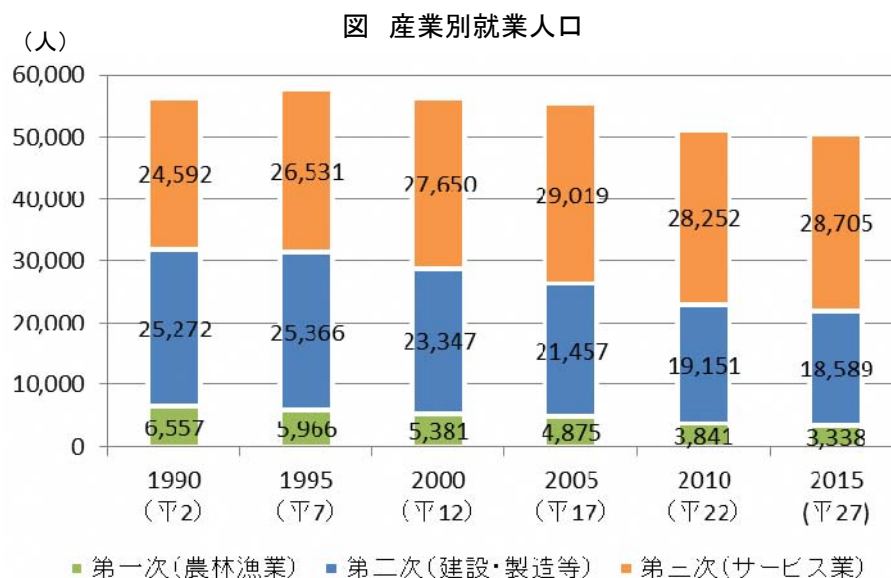


出典：島田市防災ガイドブック

2-2-3 都市の活力

(1) 産業別就業者割合

就業人口は徐々に減少しており、25年間で第一次産業は半減し、第二次産業も約2割が減少しています。一方、第三次産業は増加傾向にあります。

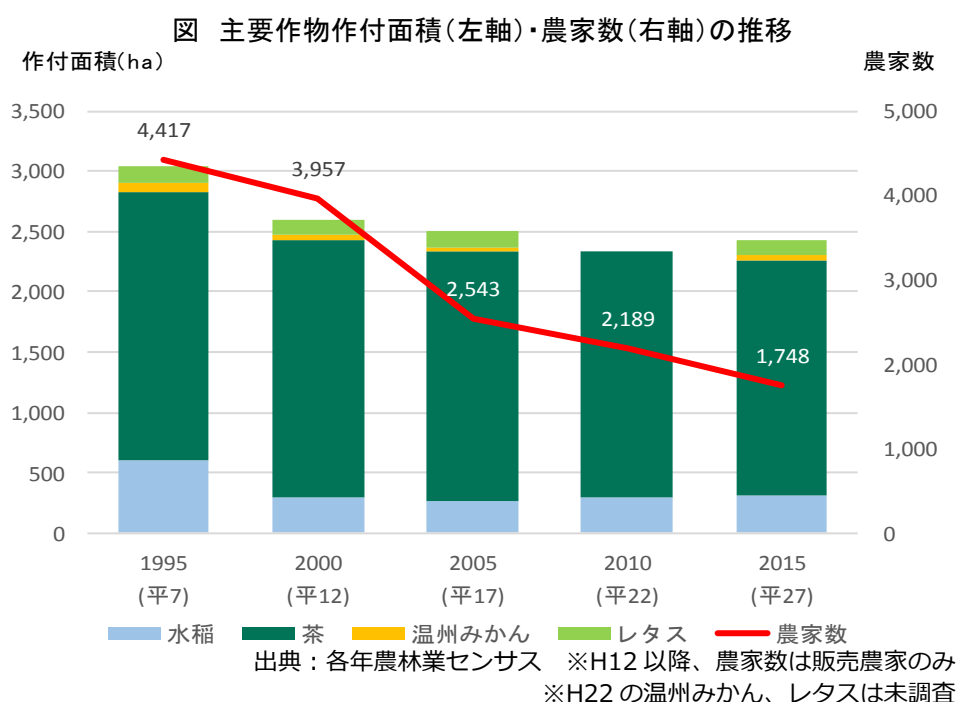


出典：国勢調査

(2) 農業

本市の農家数は、減少が続いており、2015年(平成27年)の農家数は平成7年の約4割になっています。

また、主要作物は「茶」が大半を占めていますが、作付面積は減少傾向にあります。



(3) 林業

本市は、大井川中流域から上流域にかけて森林が広がっており、市全体の約 66%を占めています。

また、森林の大半は民有林で大井川産材の産地となっています。

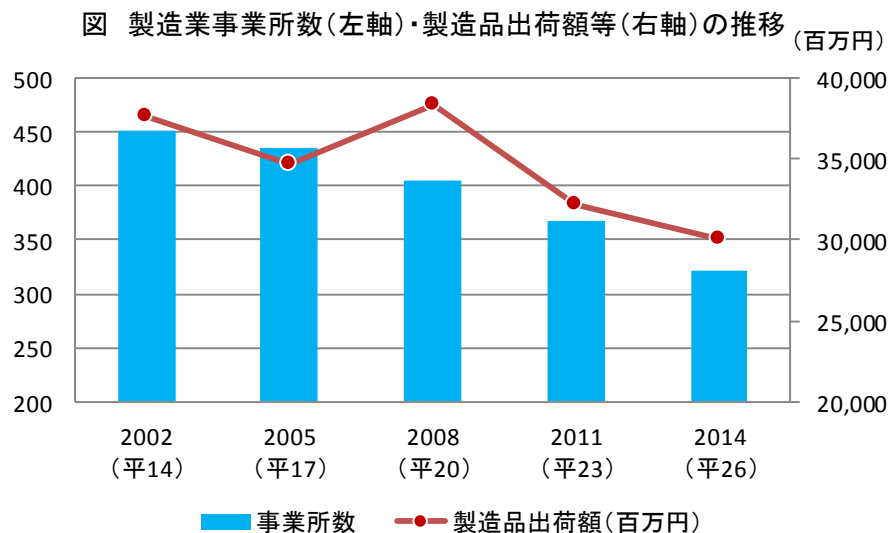
表 林業の現況				(ha)
全域面積	森林面積	森林率	民有林	国有林
31,570ha	20,880ha	66.1%	20,008ha	872ha

出典：平成 29 年静岡県森林・林業統計調査

(4) 製造業

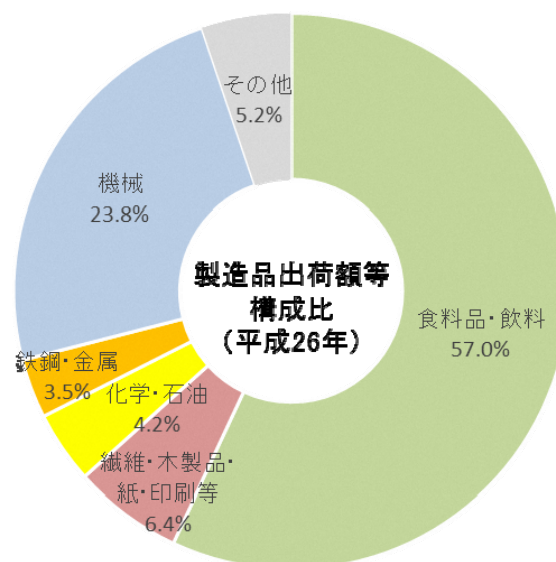
本市の製造業は、事業所数と製造品出荷額ともに減少傾向にあります。

製造品出荷額等を業種別にみると、食料品・飲料が全体の 6 割近くを占めており、続いて機械が約 24%となっています。



出典：工業統計調査

図 製造品出荷額等の構成比(2014 年(平成 26 年))



出典：工業統計調査

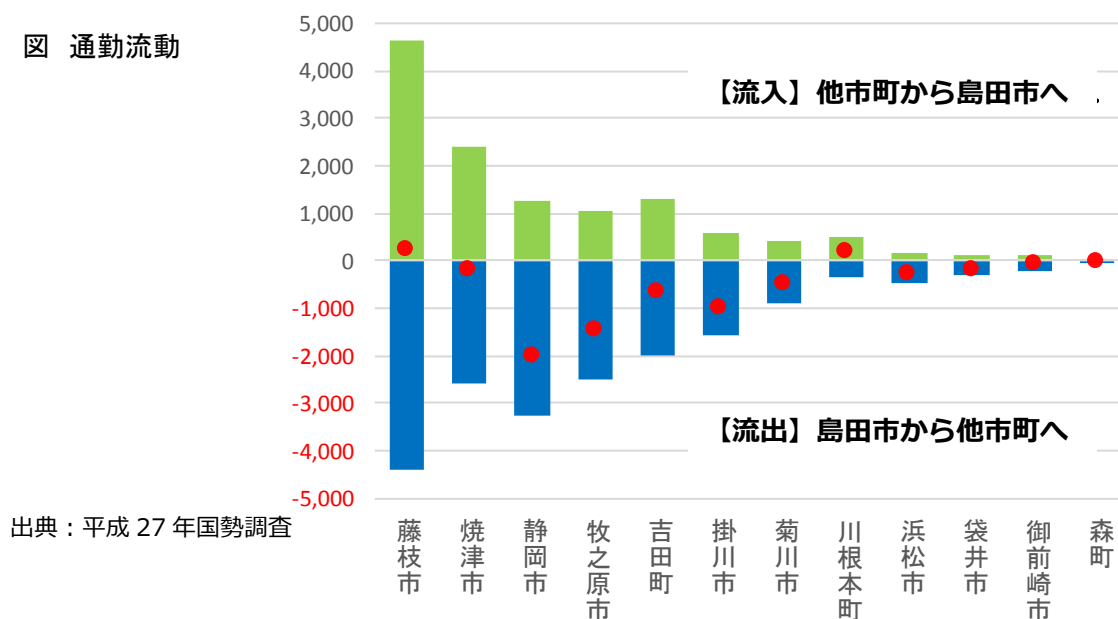
(5) 通勤流動

本市に居住する就業者のうち、市内で従業する人は約 6 割で、約 4 割が市外に流出しています。一方、他市町に居住し本市で従業している人は約 3 割となっています。

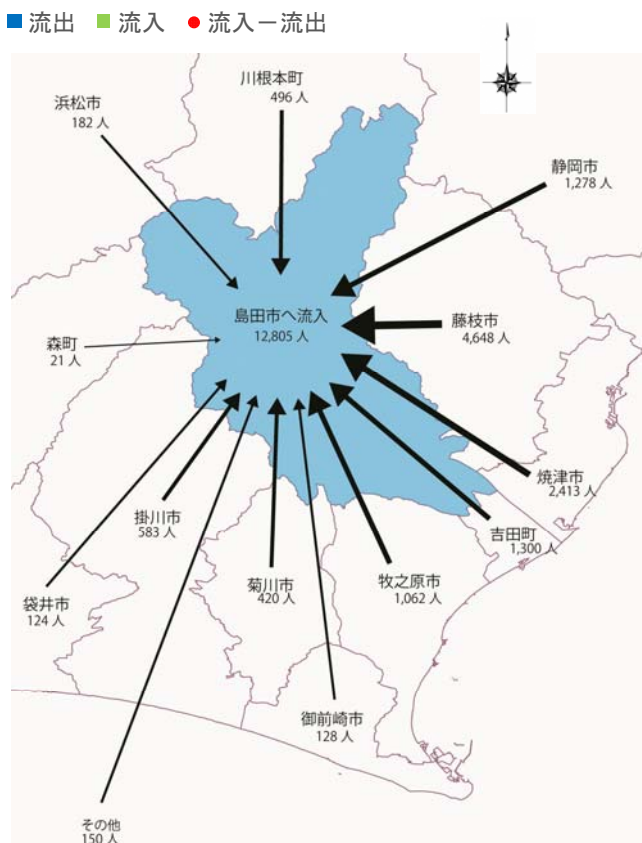
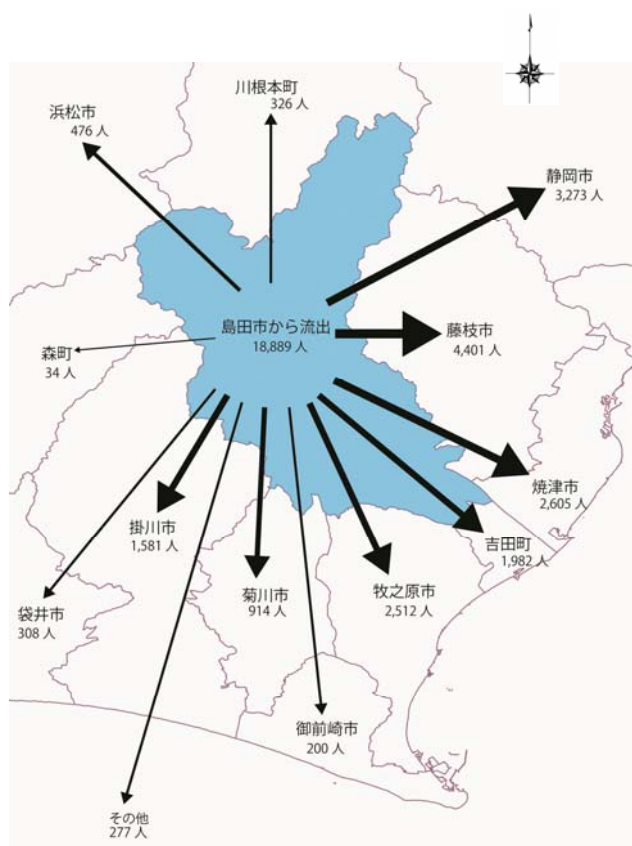
通勤流動量の多い市町は、藤枝市、焼津市、静岡市、牧之原市、掛川市、菊川市の順で、隣接都市との結びつきが強いことを示しています。

また、周辺都市への流出人口は 18,889 人で、周辺都市からの流入人口が 12,805 人と流出超過になっており、市町別では静岡市、牧之原市、掛川市への流出超過が多くみられます。

図 通勤流動



出典：平成 27 年国勢調査



※ 島田市に居住している人が島田市内に通勤している人数 31,363 人

出典：平成 27 年国勢調査

2-2-4 都市の魅力

(1) 商業

本市の商業は、商店数・従業員数ともに減少傾向であり、中心市街地の商店街も低迷傾向にあります。

一方、本市の商業（小売業）の人口1人当たりの売場面積は、周辺市と比較するとやや低いものの、概ね県平均となっています。

また、売場面積当たりの商品販売額（売場効率）は県平均を下回っていますが、周辺市と大きな差はありません。

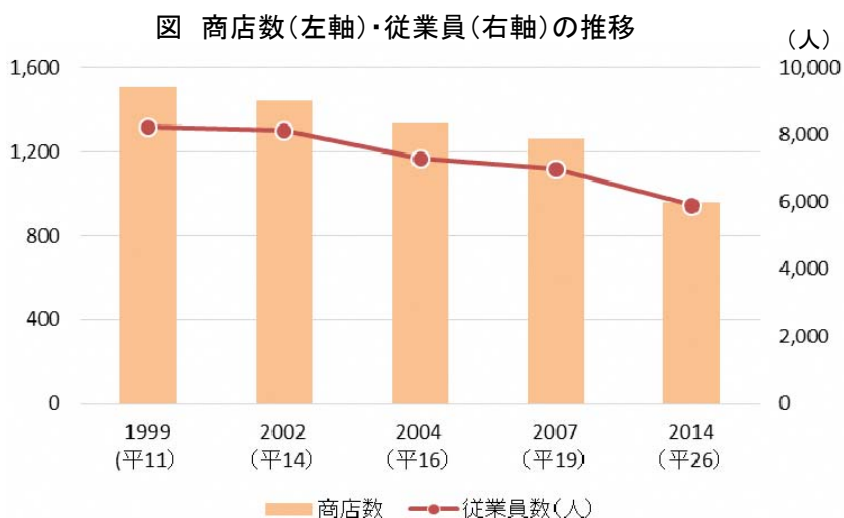
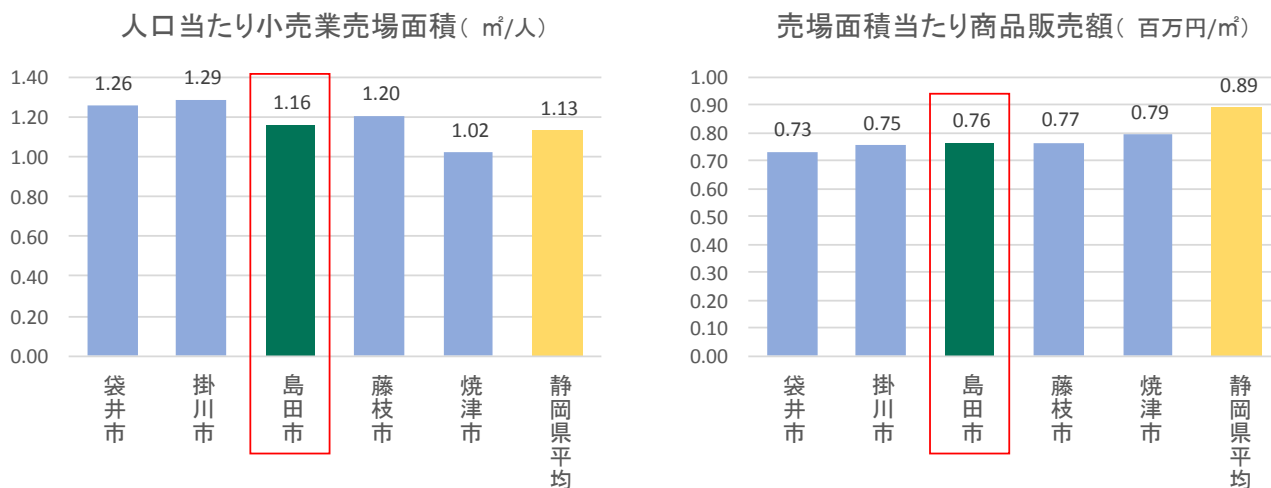


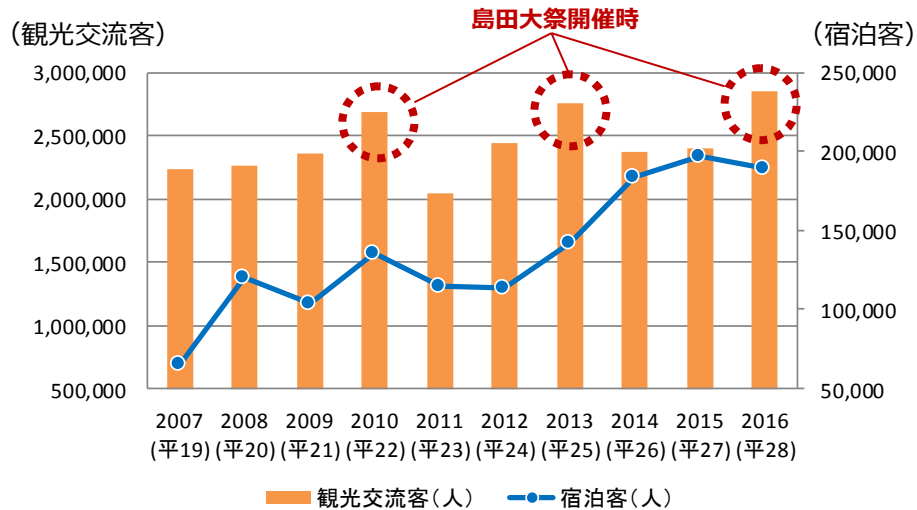
図 小売業の近隣都市比較



(2) 観光

本市には、旧東海道の大井川川越街道や蓬莱橋といった歴史資源、SLの運行で知られる大井川鐵道及び川根温泉など多くの観光資源があり、ここ数年の宿泊客は、概ね増加傾向にあります。

図 観光交流客(左軸)・宿泊客(右軸)の推移



出典：平成 28 年度静岡県観光交流の動向

図 島田市の主な観光資源



蓬莱橋



島田宿大井川川越遺跡



ばらの丘公園



大井川鐵道 SL



東海道石畳



川根温泉

出典：島田市観光協会ホームページなど

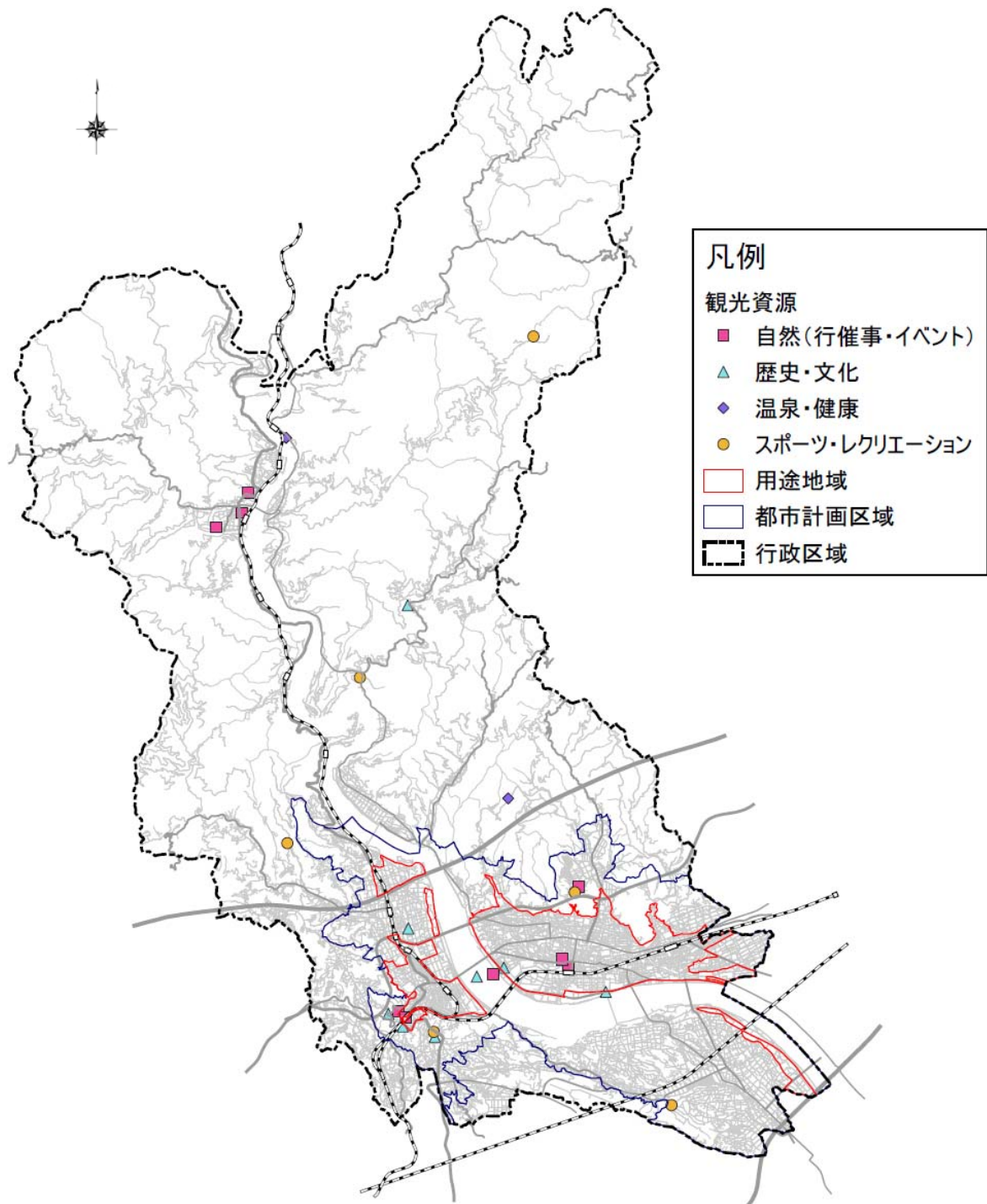


表 主な観光資源

名称	区分	名称	区分
ばらの丘フェスタ(春)	自然(行催事・イベント)	ばらの丘公園	歴史・文化
ばらの丘フェスタ(秋)	"	蓬莱橋	"
大井川大花火大会	"	島田市博物館	"
島田髷まつり	"	島田市伊久美農産物加工体験施設やまゆり	"
SLフェスタ	"	日限地藏尊縁日	"
家山梅園	"	諏訪原城史跡	"
島田大祭・帯まつり	"	川越遺跡	"
かわね桜まつり	"	川根温泉	温泉・健康
金谷茶まつり	"	田代の郷温泉「伊太和里の湯」	"
野守まつり	"	やまめ平	スポーツ・レクリエーション
川根ふる里ふれあいまつり	"	島田市「山の家」	"
島田産業まつり	"	静岡カントリー島田コース	"
大井神社	歴史・文化	中央公園ミニ鉄道	"
ふじのくに茶の都ミュージアム	"	童子沢親水公園	"
石畳茶屋	"	牧之原公園	"

出典：国土数値情報（国土交通省）をもとに補正

(3) 地域の魅力向上の取組

市民や各種団体が主体となって、自然や観光資源を活かしつつ地域の魅力を高める様々な取り組みが行われ、本市の交流人口・関係人口が増加しています。

1) しまだ大井川マラソン in リバティ

大井川沿いに整備された全国初のマラソン専用コース「リバティ」を舞台に、毎年 10 月に開催されているフルマラソン大会は、2019 年（令和元年）で 11 回目となりました。

全国から約 8,000 人が参加し、ランナーの投票による「全国ランニング大会 100 撰」に第 1 回から連続して選ばれています。

2,000 人を超える「しまだおもてなし隊」がサポートする大会運営は、好評で市民による本市の魅力発信の機会となっています。

写真 しまだ大井川マラソン in リバティの様子



出典：しまだ大井川マラソン in リバティ実行委員会ホームページ

2) ささま国際陶芸祭

川根町笹間地区で 2 年に 1 度開催されている国際陶芸フェスティバルは、2019 年（令和元年）で 5 回目となりました。

人口約 400 人の山村に 4,000 人以上の来場者が訪れるイベントとなりました。

日本の陶芸イベントとしては稀な、マーケットではなく「交流」や「学び」を主な目的としており、各国のトップクラスのセラミックアーティストを毎回招待し、最新の陶芸技法やアーティストの陶芸にける思いなどを学ぶことができます。また、空き家や旧笹間小学校を活用した展示・販売、地域ならではの物産の販売やおもてなしなど、山村文化にも触れられるイベントとなっています。

写真 ささま国際陶芸祭の様子



出典：島田市ホームページ

3) 緑茶体験

農家、観光施設、事業者などが行う、茶摘み、茶道、工場見学など、緑茶に関する様々な体験ができる企画があります。

写真 様々な緑茶体験



出典：島田市緑茶化計画ホームページ

4) 観光ボランティア

下表の団体により、市内の観光資源や良好な眺望などを案内する活動を進めています。

表 観光ボランティアの状況(平成 30 年 3 月時点)

		島田市観光ボランティア ガイドの会	かなや観光ボランティア の会	川根おもてなし人クラブ
会員数	男	10 人	13 人	17 人
	女	11 人	6 人	3 人
活動内容		市の観光振興・文化の発展 及び地域の活性化	金谷地域の宣伝と観光施 設等のガイド	川根地域内の観光案内

出典：第 2 次島田市総合計画

【コラム：関係人口】

関係人口とは、「地域に関わってくれる人口」のことで、自分が気に入った地域に週末ごとに通ったり、頻繁に通わなくても何らかの形でその地域を応援する人達を指します（「ぼくらは地方で幸せを見つける」（指出一正著）より引用）。

今後の人口減少社会において、地域が自ら魅力を磨き上げ住民の生活を守るとともに成長や活力を取り戻すことにより、持続可能な地域づくりを進めるためには、その地域のファンである関係人口を増やしていくことが重要です。

表 関係人口の例

分類	①関係人口（導入型）	②関係人口（体験・交流型）	③関係人口（担い手型）
内容	・ふるさと納税（寄付） ・クラウドファンディング ・産地にこだわる消費 ・都市部での交流イベント（受け手として） - など	・都市・農村交流 ・滞在・体験型交流 ・映画・芸術祭、季節行事（受け手として） ・インターン - など	・映画・芸術祭、季節行事（担い手として） ・ボランティア ・商品開発 ・二地域居住 - など

出典：地方への流れを促進し、地域の定住人口・関係人口を増やすために（国土交通省ホームページ）

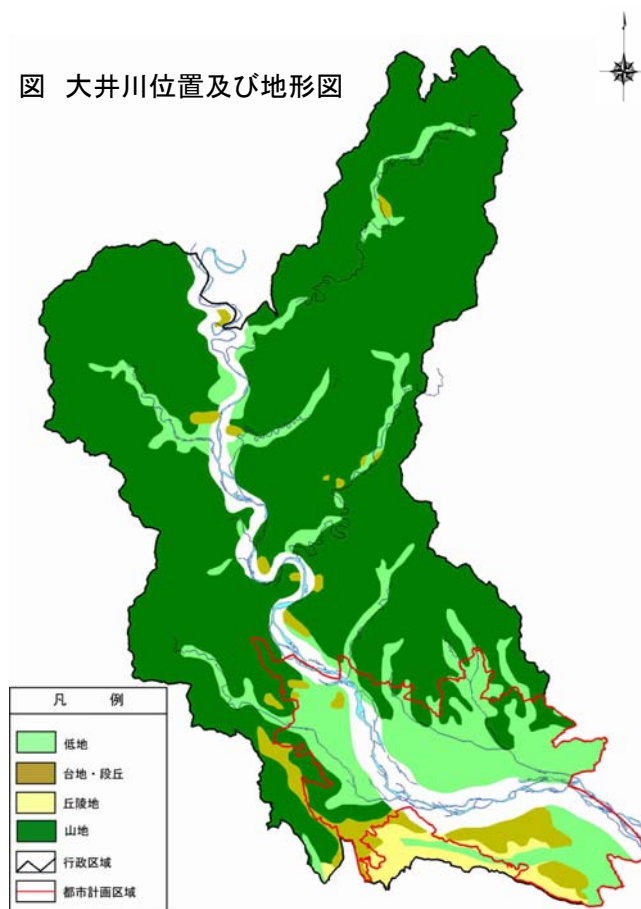
2-2-5 都市の環境と調和

(1) 河川

本市の中心を流れる一級河川大井川は、川幅が約1 kmにもおよび、本市の成り立ち及び歴史・風土に大きな関わりを持っています。

また、南部の市街地周辺においては、市街地に隣接する貴重なオープンスペースとして、都市環境の向上に大きく寄与しています。

図 大井川位置及び地形図

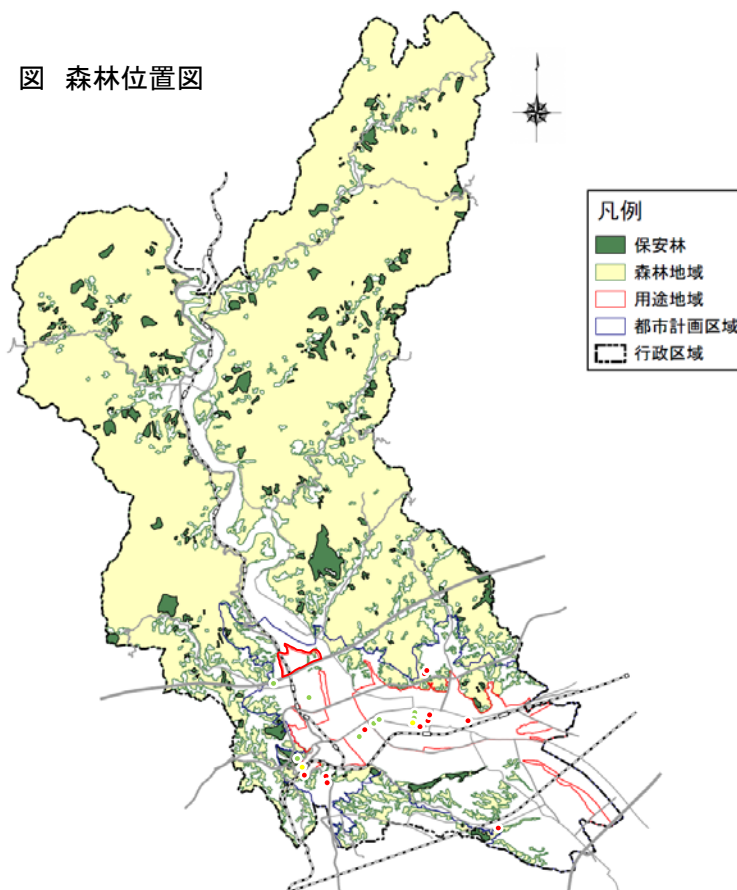


(2) 森林

本市の都市計画区域の北側は、大井川の両岸に広く森林地域が指定されており、その中に保安林が分布しています。

これらの森林は、市街地、集落地周辺のまとまった緑として、都市環境の向上に寄与しています。

図 森林位置図



出典：国土数値情報（国土交通省）

(3) 農地

本市では、用途地域を除くほぼ全域に農業振興地域が指定されており、その面積は市全体の約 7 割を占めています。

また、農業振興地域には森林原野も含まれており、農用地区域は市全体の約 1 割となっています。

農用地区域は大井川下流部の平地部及び丘陵に一団の指定がされているほかは、大井川水系の谷沿いに分布しています。

これらの農地は、茶をはじめとした農産物生産の場となるとともに、市街地、集落地の周辺における緑として、都市環境の向上に寄与しています。

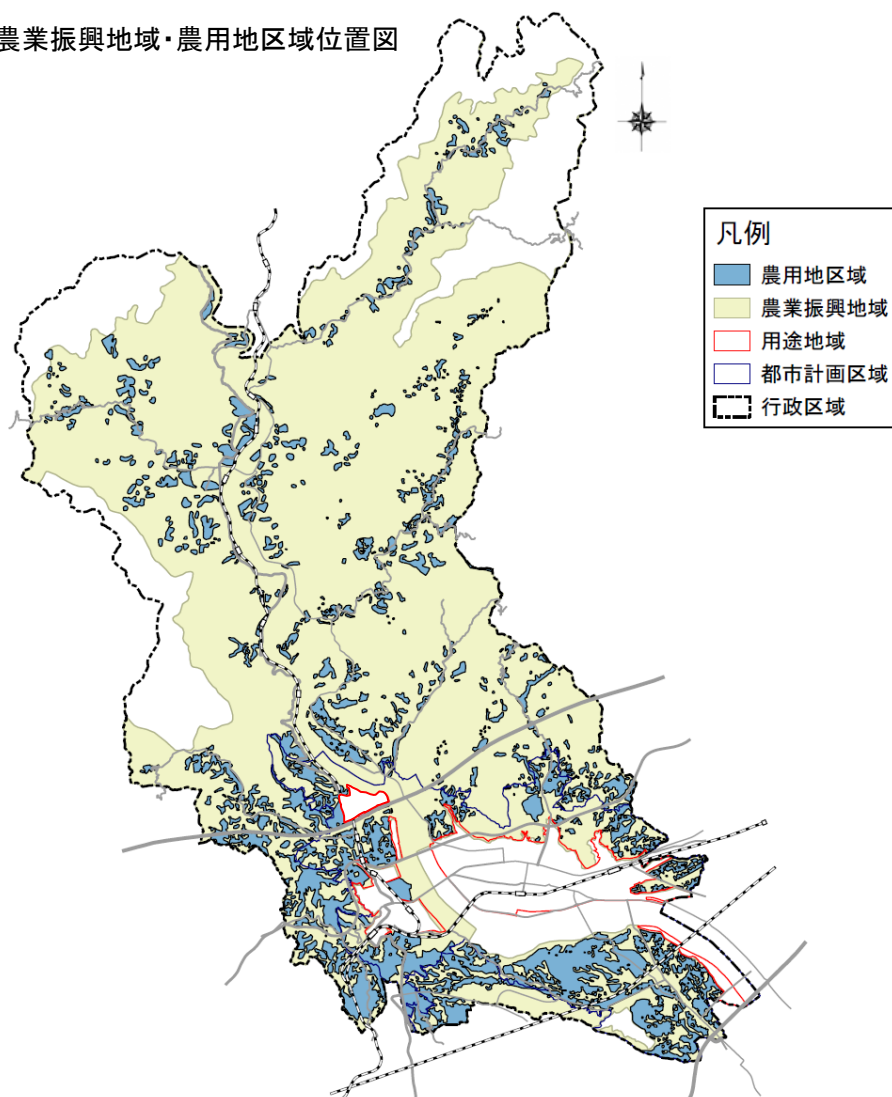
表 農業振興地域の内訳

(単位：ha)

島田市 全域	農業振興 地域	内 訳			
		農用地	農業用 施設用地	森林原野	その他
31,570.0	22,789.5	3,744.4	15.9	14,519.2	4,509.9
100.0%	72.2%	11.9%	0.1%	46.0%	14.3%

出典：島田市農業振興地域整備計画書（平成 29 年 3 月）

図 農業振興地域・農用地区域位置図

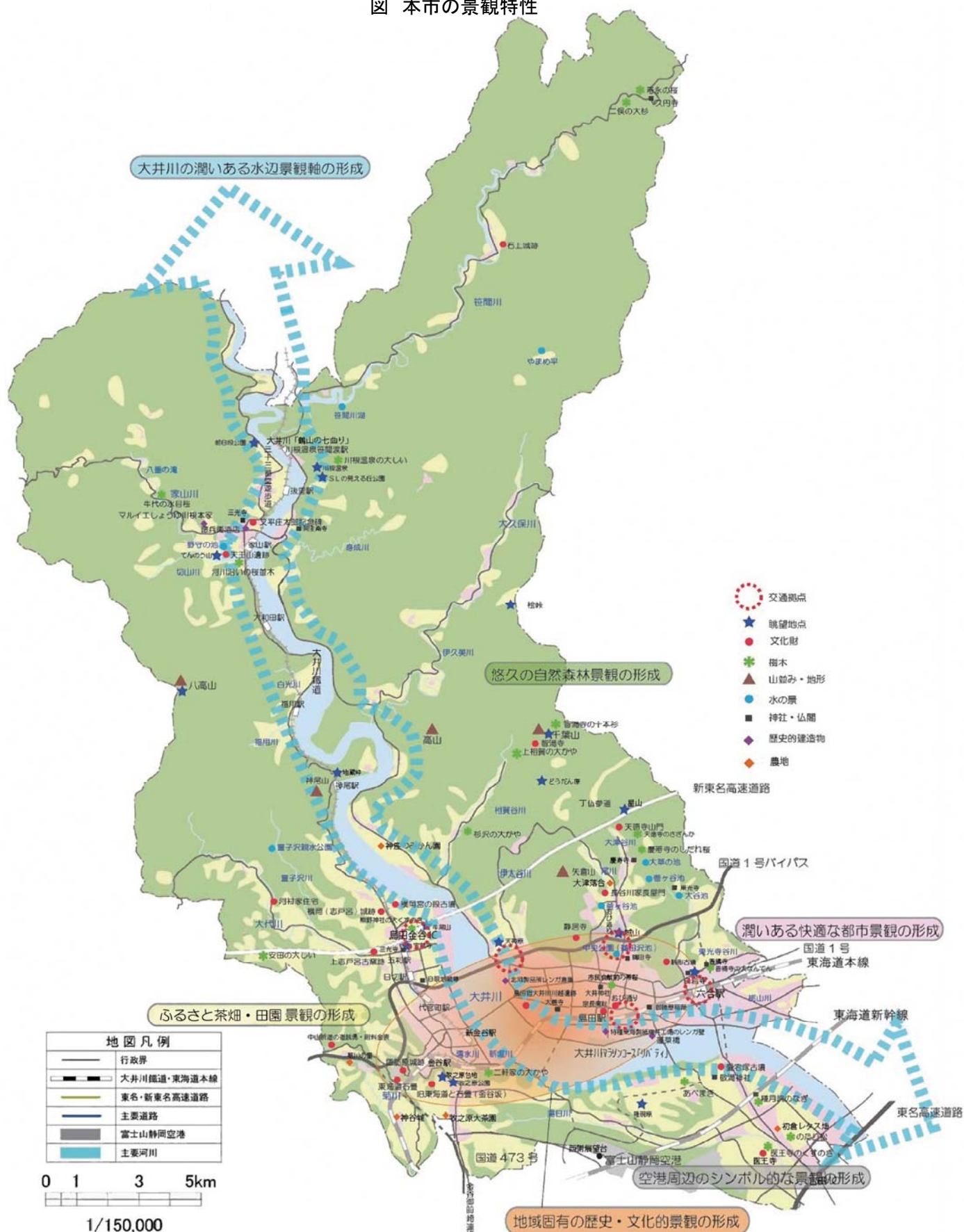


出典：国土数値情報（国土交通省）

(4) 都市景観

本市は、自然、歴史及び文化の良好な景観が存在しており、平成 25 年 10 月に「島田市景観計画」を策定し、良好な景観形成のための形成基準などを定めています。

図 本市の景観特性



出典：島田市景観計画（平成 25 年 10 月）

2-3 都市の現況、特性の調査分析のまとめ

都市の現況、特性の調査分析のまとめを次のとおり整理します。

表 都市の現況、特性の調査分析まとめ

項 目		都市の現況、特性の調査分析まとめ
1 都市の暮らしやすさ	人口・土地利用	・今後 20 年間で、現在の 98,000 人から約 80,000 人へ約 20%の人口減の予測 ・合計特殊出生率は全国平均 1.46 に比べやや高い 1.54 ・大学進学・就職時に市外流出が多いが、20 歳代後半は転入超過の傾向 ・市街地は 45 年間で 2 倍拡大するも人口密度は低下し、今後市街地としての目安である 40 人/ha 以下となる懸念
	生活サービス施設・公共公益施設	・旧市町の中心部周辺は生活サービス施設などが立地し利便性は高い
	都市基盤・交通	・都市計画道路の整備率は高い ・自動車依存度が周辺都市の平均よりも高い ・東海道本線、大井川鐵道大井川本線により、公共交通の骨格を形成 ・鉄道、バスの公共交通網が市内全体を網羅するが、人口の約 19%が公共交通空白地域に居住 ・都市計画公園・緑地の整備率は低い
	都市経営	・生産年齢人口の減少による税収減、高齢化による社会保障関連費の増 ・公共施設・インフラ老朽化による維持管理費の増加
2 都市の安全安心	空き家	・空き家の増加
	災害危険性	・地震時津波の危険性はないが、一部で液状化の危険性がある ・市街地の一部は大井川の洪水浸水想定区域内 ・用途地域の外縁部などが、土砂災害警戒区域の指定地 ・避難所は適正配置されている
3 都市の活力	都市基盤・土地利用	・東名・新東名高速道路、国道 1 号など広域幹線道路の要衝 ・世界とつながる富士山静岡空港の立地 ・新東名高速道路 IC 周辺に用途地域拡大
	産業	・茶業や大井川の水資源を活用した産業の発達 ・製造業における事業所数・製造品出荷額の減少 ・通勤流動における他市町への流出超過
4 都市の魅力	商業	・商店・従業員数の減少 ・中心市街地の空き店舗・空き地の増加
	観光・情報発信	・大井川、旧東海道、大井川鐵道の SL、温泉などの豊富な観光資源による観光客、宿泊客の増加 ・島田市緑茶化計画によるシティプロモーションの展開
	交流人口・関係人口	・市民、各種団体が主体となって地域の魅力を高める取り組みが実施されており、交流人口・関係人口が増加
5 都市の環境と調和	みどり・水	・大井川を中心に、豊かな森林や農地が、市街地、集落地の周りに広がり、良好な都市環境に寄与 ・林業や農業の担い手が減少し良好な森林や農地環境の維持が懸念
	景観	・自然、歴史及び文化の良好な景観が存在